

# 平成29年度

社会福祉法人 三育ライフ

＜東京事業所＞

## 事業報告書



- 特別養護老人ホーム シャローム東久留米  
203-0023 東久留米市南沢 5-18-36 (事業者番号: 1374800066)  
TEL: 042-467-1561 FAX: 042-467-3040
- 高齢者在宅サービスセンター シャローム南沢  
203-0023 東久留米市南沢 5-18-36 (事業者番号: 1374800330)  
TEL: 042-467-1648 FAX: 042-477-2080 (居宅支援: 1374800132)
- 東久留米市幸町デイサービスセンター  
203-0052 東久留米市幸町 1-19-5 (事業者番号: 1374800827)  
TEL: 042-470-8187 FAX: 042-470-8188
- 東久留米市中部地域包括支援センター  
203-0052 東久留米市幸町 1-19-5 (事業者番号: 1304800038)  
TEL: 042-470-8186 FAX: 042-470-8188
- 認知症対応型共同生活介護事業 グループホーム白山  
203-0032 東久留米市滝山 7-22-11 (事業者番号: 1374800512)  
TEL: 042-470-4630 FAX: 042-470-4830
- 認知症対応型共同生活介護事業 シャローム本天沼  
167-0031 杉並区本天沼 2-36-17 (事業者番号: 1391500145)  
TEL: 03-3395-6333 FAX: 03-3395-6331
- 杉並区立重症心身障害児通所施設わかば  
167-0032 杉並区天沼 3-15-20 1F (事業所番号: 135150515)  
TEL: 03-5347-0550 FAX: 03-5347-0551

平成 29 年度  
社会福祉法人 三育ライフ  
事業報告書

《 目 次 》

平成29年度 社会福祉法人三育ライフ 理事長報告 .....	1
【法人本部報告】 .....	2

【東京事業所】

東京事業所 施設長概要報告 .....	4
---------------------	---

特別養護老人ホーム シャローム東久留米（介護老人福祉施設事業・短期入所生活介護事業）

【生活介護課】 .....	6
【生活相談課】 .....	9
【栄 養 課】 .....	15
【看 護 課】 .....	19
【管 理 課】 .....	24
【職員の状況、防災訓練等】 .....	27
【特養第三者評価】 .....	28
【チャプレン】 .....	29

高齢者在宅サービスセンター（シャローム南沢・東久留米市幸町デイサービスセンター）

【在宅福祉課】（シャローム南沢／通所介護業） .....	30
【東久留米市幸町デイサービスセンター】（通所介護事業） .....	32
【訪問介護支援課】 .....	34
【居宅介護支援課】（南沢居宅介護支援事業） .....	36

シャローム本天沼（認知症対応型共同生活介護事業） .....	39
--------------------------------	----

グループホーム白山（認知症対応型共同生活介護事業） .....	41
---------------------------------	----

東久留米市中地域包括支援センター .....	43
------------------------	----

杉並区立重症心身障害児通所施設わかば .....	48
--------------------------	----

< 資 料 >

職員研修参加状況 .....	52
施設内研修会（職員会） .....	54

## 三育ライフ 平成29年度事業報告あいさつ

私たち三育ライフの使命は地域社会における社会福祉の推進と向上と充実です。当法人の理念は、「いのちを敬い、いのちを愛し、いのちに仕えることによって、神の愛の実現に奉仕する」ですが、今年度、この理念を踏まえた福祉サービスの提供を通して、使命達成のために職員一丸となって研鑽いたしました。

東京事業所シャローム東久留米は開設26年、千葉事業所シャローム若葉は開設24年が経過しますが、それぞれの事業が支えられていることはひとえに多くの関係者の皆様のご支援の賜物と心より感謝する次第です。

日本は超高齢社会を迎え、高齢福祉事業の必要性とその意義は年ごとに緊急性と重要性を増していますが、今年度は多岐に渡る福祉的必要性を踏まえ、業務内容の研修、改善に取り組み、関係者の皆様のご期待と信頼に応えることのできる法人を目指し、以下の点に力を入れて事業を運営いたしました。

ひとつは法人理念の一層の徹底を図り、昨年度より設けたチャプレンの働きを推進したことです。従来なかった職務ですので、法人全体に浸透するまでには時間がかかりますが、法人理念の精神を具体化する大切な職務と考えています。

二つ目は例年のことですが、接遇の改善を基本としたサービスの質の向上です。福祉的多様なニーズに対し、より良いサービスの提供のために、個々の職員の意識のみならず、組織全体の意識の向上を目指しました。そのために、計画的な職員の研修を、東京事業所と千葉事業所の連携の中で継続し、相互に学び合うことで業務に繋げることができるように努めました。また、やりがいのある職場環境を整えることで人材の流出を留めると共に、新卒者を始め、新しい人材の採用のために関係者への働きかけに務めました。

三つ目は、業務内容と設備の見直しを進め、利用者と職員の安心と安全、満足の向上を目指しました。そのために職員間のコミュニケーションを大切にし、IT化を進めることで、意思疎通の迅速化と情報の共有化を図りました。感染症の発症がなかったことは、その賜物と考えています。

四つ目は、地域包括ケアシステムの構築につながる地域福祉の充実を図ることで、地域福祉の拠点となることを目指しました。ボランティアや中高生の職場体験の受け入れ、大学生の実習の受け入れのみならず、災害時の対応などを視野に入れた関係各所と連携する、開かれた法人としての使命と責任を果しえたのではと自負しています。

五つ目は、法人本部機能の向上と健全運営です。東京事業所、千葉事業所との定期的協議を重ね、各事業所の経営、財務状況を踏まえ、法人全体の事業計画を遂行いたしました。法人の理念に基づいた、法人としての方向性を繰り返し確認し、現場の対応力を研鑽し合うことができたことは感謝でした。

## 平成29年度、理事会・評議員会、法人経営会議等の報告

4/18	三法人会議
5/25・26	監事監査
5/28	東京事業所25周年記念ボランティア感謝の集い
5/31	理事会・評議員会
6/13	法人経営会議
7/19	三法人合同研究発表会
8/28	千葉話し合い
9/21	法人経営会議
10/25	理事会
11/13	法人経営会議
11/15	三法人会議
12/6	EPA国内研修修了式(愛知)
1/25	理事会
3/20	理事会
3/28	評議員会

## \* 法人経営会議

メンバー

法人理事長	東海林 正樹
千葉事業所 施設長	高幣 義嗣
千葉事業所 財務課長	山本 一
千葉事業所 総務課長	永島 慎志
千葉市あんしんセンター桜木 センター長	赤間 美恵子
東京事業所 施設長	我謝 悟
東京事業所 事務長	清水 浩二
東京事業所 副施設長	鷹部屋 宏平

主 旨

東京事業所、千葉事業所との定期的協議

- ・各事業所の経営、財務状況を踏まえ、法人全体の課題や各事業所の課題を協議する
- ・理事会に向けての議案の確認と調整など

三法人会議等

- ・横須賀、横浜の姉妹法人との話し合い・情報交換



今年度は、シャローム東久留米の25周年を迎えた。ボランティア感謝の集いで、現在ボランティアとして活動していただいている全員に、感謝状をお渡しして、日頃の感謝をお伝えできた。その節目の年に改正社会福祉法が施行され、中でも社会福祉法人制度の見直しが行われた。

東京事業所としては全事業、全部署の一致団結をテーマにして取り組んできた。その成果の一つとして、特養・各グループホームの利用者の感染症（インフルエンザやノロウイルス）の発症がなかったことは、これまでの研修と相互の協力体制が大きな要因と思われる。

接遇については全体職員会での研修を実施、IT化も含めた業務改善、新しい総合事業への取組、など具体的にそれぞれの部署で行い、少しずつ前進できたと思う。一方、社会福祉法人として、地域包括ケアシステムおよび社会貢献を進めることを目標としていたが、具体的にはなかなか進めることができなかった。しかし東久留米市の市内社会福祉法人連絡会の立ち上げを社協と協議し、準備会の一員として取り組みを開始した。

特に今年度からEPAの制度を活用した外国人雇用が開始された。2名の人材がインドネシアから来られ、すでになくはならない人材になっている。二人が現場での働きと、介護福祉士になるための勉強を進めて行けるようにサポートしていかなければならない。

また、社会福祉法人制度改革に対応するべく、シャローム三法人のグループとしての強化を進めてきた。しかし法人の一本化については、他の2法人との検討・議論は続けてきたが、各法人の状況もあり保留となっている。

キリスト教の精神に基づいて、東京事業所全体が、そして法人全体が一致して対応していくことを何度も繰り返し課長会、職員会で伝えることで、少しずつではあるが、ご利用者がより最適なケアを受けられるような情報の共有や、サービスの移行などがスムーズに進むようになった。人員の不足は厳しい状況であったが、全員が一致団結して素晴らしい働きをしてくれたことに感謝したい。

## 1. サービスの質の向上に取り組む

接遇・マナーの向上については、研修を実施するとともに、繰り返し確認していくことで、各部署の意識は向上している。今後は日々の業務の中で気づいたことはどの部署であれ、どの職種であれ、お互いに伝え、確認していける体制の確立を考えていきたい。今年度は、各課の事業計画について、アクションプランを作成し、その見直しをしていくことで、PDCAサイクルを具体化することができた。全体研修についても、有意義な研修を開催でき、参加した職員から勉強になったという言葉が多く聞かれた。職場環境の整備については、経年劣化や故障により不具合が出た備品について、できるだけ迅速に対応するように努めたが、今後も厳しい状況になってくるとと思われる。キリスト教の精神をスタッフに届けるプログラムについては、次年度の課題とし、具体的なアクションを起こす方向で検討したい。

## 2. 業務内容と設備の見直しを進め、利用者と職員の安心と安全、満足の向上について

特養と在宅の間で人事異動をする事により、相互の理解が進み協力体制がとれるようになってきた。特養の入浴については、1階の浴室の整備により一定の成果が出ているが、2階の整備には至らなかった。今後の課題である。感染症対策については、感染症対策委員会を中心に事業所全体で取り組みを強化し、徹底していったことで、感染症0を達成できた。

### 3. 地域包括ケアシステムの構築につながる地域福祉の充実について

新しい総合事業がスタートしたが、保険者の方針や事業内容が、住民や事業者にうまく伝わらず難しい状況となっている。今後協議を重ね、住民にとって良いサービスが提供できるように進めていきたい。東久留米市社協と協議を行い、市内の社会福祉法人が連携し協力し合うことで市民のための取り組みが進められるようにしていくことになった。具体的には次年度からの活動となり、準備を進めている。地域包括支援センターを中心に地域の自主グループの活動へのかかわりを進め、法人としても地域住民の地域包括ケアの推進に向けて今後も取り組んでいかなければならない。

### 4. 法人・施設の健全運営（継続）

組織の再編を行い、副施設長を任命することで在宅部門や特養との意思の疎通がはかられ、スタッフの考えや希望も取り入れて法人運営にあたることができた。今後杉並区での事業が増えていくことになり東京事業所内でも協力し合う必要がより強まってくる。そのためにも常勤だけでなく非常勤のスタッフとのコミュニケーションを大切にしていくことは、引き続き工夫が必要な点であると思う。

加えて、千葉事業所との法人会議は適宜開催し、具体的な課題について議論することができた。今後は、中長期計画の見直しや、法人としての方向性についても検討し、決めていかなければならない。今後も定期的に会議を開催していく必要がある。

平成29年度事業報告		生活介護課		課長：宮下 賢二	
部門職員数（平成29年3月31日 現在）					
課長	1名	主任	3名	副主任	3名
				常勤	17名
				非常勤	30名
				合計	24名
				総合計	54名

今年度は職員、利用者ともに笑顔で快適に過ごすことができる施設を目標とし、接遇マナー、人材の確保、教育を中心に研修、勉強会をおこない取り組んだが、人材不足が慢性的に継続し、人材確保がままならなかったため、理想のケア体制に至ることはできず、現場スタッフには、かなり負担をさせてしまった。ただ、厳しい人材環境の中、看取りケアの取り組みや稼働率の維持、感染症対策等に懸命に取り組み、サービスの質の向上に務めた。

### 平成29年度「事業計画」達成状況

#### 1. 専門的なチームケアの実践を目指す

① 1Fは重介護の利用者対象のフロアであり、全介助の方がほとんどである。経管栄養の方からバルンカテーテル留置者、また、看取りになる対象者が多いのもこのフロアである。

今年度は更に重度化が進み食事介助に人々と時間を要するようになり、朝食時から全ての業務に遅れが出るという状態になってきた。その状況の中でも継続して看取りケアをおこない、お別れ会についても、スタッフが中心となり、居室でのお別れ会をして、形式的でなくても心のこもったお見送りができ、家族にも感謝の言葉をいただくことができた。

ターミナル委員会での話し合い、フロアスタッフによる振り返りも実施した。次年度も入所者や家族の意向をさらに反映させるため、平穏時からの意向確認やさらなる情報収集を図り、看取りケアだけを意識せず、つねに尊厳を持ったケアを行っていく事が大切であると感じている。

前年度新設した1F機械浴の稼働を継続しておこない、他フロアでの感染症等による入浴業務の中止がなくなり、定期で安定した入浴が出来たため、皮膚トラブルの減少や褥瘡の予防にも繋がった。重度化に伴い、通常のトランスでの移乗の対象者が減少し、殆どスライドボードを使用している。スライドボード以外のスーパートランスも数名に行ってきたが、利用者の状態にあわせた介護を目指すために、トランス専門講師等による勉強会をおこない、他の移乗方法も検討し実施していく必要がある。

② 2Fは、軽介護フロアとから、介護保険改定により重度化が進み、現在は、中重度フロアになっている。更に、ショートステイを含め満床で36名と一番利用者が多いフロアなため、スタッフの負担感も大きくなってきている。満足度調査でも声の多かった「トイレに並ばなくてはいけない」とおり、トイレ介助を必要な利用者の増加、訴えの増加に対し職員の減少が現状を示しているといえる。人で不足の中でも、ベランダをリノベーションし洋風の庭園を作り、天気の良い日は外でお茶をするなど、新しい企画や行事も行うことができた。ショートステイについては、利用者満足度と感染症対策のため、『ひだまり』をショートステイ利用者専用のデイルームの設置を継続した。ショートステイ利用者の重度化とフロアを分割するため人員の確保や業務分担などの課題が残った。

感染症対策として、2階浴室の稼働を行った。フロア移動なく入浴できることは感染対応には良か



ったが、浴室に脱衣所がないため、隣の居室を脱衣所として使用し、廊下にパーテーションで仕切り移動をおこなわなければいけない状況に、利用者から批判の声もあった。

③3F 認知症フロアでも重度化が進み、利用者の見守りに追われる状況が増加してきた。人員不足が続いているが、課を超えヘルプに来てもらい支えられるという法人内の連携という面では良い事にも繋がった。専門的ケアの実践として、ケアの質の向上に取り組んだ。課全体での取り組みでもあるユマニチュードを取り入れ日々のケアを見直す機会を作ることができた。月末の利用者懇談会の実施、業務の見直し(遅遅勤務への取り組み、マニュアル作成、勤務時間の変更)、排泄の見直し(その人にあったオムツの形態や交換時間への変更)、状態にあった食事形態や食器に変更、季節を取り入れた行事企画、家族を迎えた茶話会を実施した。

④利用者満足度調査については、居室担当者を中心に、3月に実施した。

それによりご利用者の声が直に聞くことができ、又、前年度とも比較することができました。今後のミーティングや研修等に活かし、ご利用者の生活の質がより一層向上できるよう、スタッフ全体で取り組んでいきたい。

#### ⑤チームアプローチケア実践

チームアプローチケアをより効果的にするために、他課と連携を密にして、様々な問題に取り組んだ。

まず、経口維持については、訪問歯科医師の指導の下、歯科衛生士や、看護課、栄養課、相談課とも協力して、経口摂取の維持に取り組み、経口維持加算にもつなげる事ができた。

次に感染症に関しては、「発生させない・広げない・もらわない」三原則と標準予防策の徹底、さらに「職員の感染症の持ち込みはゼロにしよう！」を施設の共同テーマとして取り組んだ。その成果もあり、利用者のインフルエンザ感染者はゼロという成果が得られた。

循環型機械浴槽の定期的な機械浴槽の洗浄、消毒と水質検査を継続しておこない、今年度末の水質検査では、レジオネラ属菌は検出されなかった。

#### ⑥事故報告書と状況報告書（ヒヤリハット）について・・・

今年度も状況報告書（ヒヤリハット）の件数には拘らず少しの変化でも報告するスタイルを継続した。新書式に関しては、ほのぼののシステムで記録を入力するようになり、記録から帳票類の出力がリンクして行えるため、新書式の検討を行ってきた。記録委員が中心となり話し合いを重ね、事故報告書（新書式）を作成し運用することができた。状況報告書については次年度に持ち越しとなった。

## 2. 人材育成

### 1) 個別の研修計画を実施し専門性を高める

・「自己目標設定シート」と「関わりチェックシート」をもとに各人で年間の自己目標を立て、年2回（6月、3月）、話し合いの機会を持ち、自己目標の達成に向けた相談の他、「関わりチェックシート」をもとに接遇の振り返りを実施した。日々のケアの中での技術向上、資格取得、課内勉強会の活用等、一人一人の自己研鑽の様子に触れることや振り返りの過程で意識を共有する機会ともなった。「自己目標設定シート」をもとに「個別研修計画表」の作成を実施した。

## 2) 課内の内部研修の確立

- ・今年度も、人権擁護委員会による勉強会の企画、実施をすることができた。今年度はスピーチロックに関して、様々な職員から意見をもらい、想定した介護現場での対応を寸劇でおこない、皆で考えてもらい、改善対応をそれぞれのグループに発表してもらいスタイルの勉強会を実施した。勉強会後のアンケートで、普段の自身のケアを見直す良い機会となったという声が多かった。
- ・介護課会議にて、ユマニチュードに関する勉強会も継続して行うことができた。  
「見る」「話す」「触れる」「立つ」についての理解を深めた。

## 3) 研究発表

- ・施設内研究発表会で、3階フロアの『記録物を手書きからパソコン入力に移行してのご利用者のケアの変化について』を発表し、好評を得た。次年度の『アクティブ福祉 in 東京 '18』に応募予定している。

## 3. 職場環境の改善

- ・前年度から課題となっていた、1階浴室脱衣所の棚、2・3階トイレ前洗面所の棚、3階エレベータ前パーテーションを設置することができた。
- ・排泄委員会にて、災害時オムツの置き場所になっていた倉庫を整理し、余分な在庫を処分することにより、在庫管理が行い易くなった。
- ・人員不足に伴い、入浴業務が早く終わったあと各フロアの何か手伝えないか?という意見から、入浴委員会を中心とし入浴後業務の変更、効率化を図ることができた。

## 4. 地域とのつながり、社会貢献

- ・平成29年度も、南町小学校の施設交流や南町小学校の総合的な学習の時間に参加し、地域の児童と施設利用者の交流を行った。また、交流を行った小学生達は、11月のシャローム祭でボランティアとして利用者と交流する機会を作ることができた。参加した生徒から「楽しかった」「また参加したい」という声を聞くことができた。

平成29年度事業報告	生活相談課	課長：我謝 悟
------------	-------	---------

部門職員数（平成30年度3月31日 現在）

課長 1名	主任 1名	副主任 0名	常勤 4名	非常勤 1名	合計 5名
-------	-------	--------	-------	--------	-------

特別養護老人ホーム（以下、特養）は健全な経営と地域貢献が求められてきている。相談課としては、期の途中で人事異動があり、施設長が相談課長を兼務することとなったが各課、関連期間と連携し、健全な経営と質の高いサービスを提供できるように業務改善、事業の再構築を行い、計画の達成に向けて課内のスタッフと協力してきた。

## 平成29年度「事業計画」達成状況

### 1. 円滑なサービス利用の支援

#### 1) 入院者・退院者の支援

今年度は入院者 49名（昨年度は入院者 53名）、入院先で死亡・転院し利用が終了になった方 9名（6名）となっている。全体的に入院者の数は昨年度に比べ少なくなっているが、入院延べ日数は微増である。このことは利用者の重度化、疾病にもかかりやすい利用者が増えたためと考えられる。そのような状況の中で、相談課としては、入退院の手続きの相談はもとより、入院先でご逝去された方のその後の対応の相談、または施設へ戻ることが困難な病状の利用者への相談などの応じ、ご利用者の状態に応じた支援をすることができた。

#### 2) 退所者・入所者の支援

入所対象者が原則要介護3以上となったことを踏まえ、特養が重度者等の積極的な受け入れを行うことが役割となった。当施設では、退所者16名となり、昨年度に比べると3名増となった。しかし、重度化により、入院日数は1074日と前年から増大したままであることは現場での介護量が増えていることの問題にもなり、入所者選定の点でも相談課として苦勞している点である。待機者についても、医療的な依存度の高い方が多数おられたり、特養が空くのを待ってられず、有料老人ホームや、サービス付き高齢者住宅に入居する方が増えている。一方ではまだ、在宅で頑張れると入所を先送りする方もあり、入居者選考が困難を極めてきている。それらは、稼働率は前年度の95.9%から94.5%となっていることや空床期間（退所者から新規入所者への移行期間）が前年度平均15.35日から平均37.7日と前年度から大きく増えてしまったことの要因の一つと思われる。加えて期の途中で人事異動により担当が変わり、対応に苦慮したこと、担当者に大きな負担をかけてしまったことは課長として責任を感じる。今後は、特養のますますの重度化を予測し、①待機者名簿の調査を待機期間ごとに分けて実施、②待機者の候補者面接を定期的実施、③入退所委員会の迅速な実施なども工夫し進めていかなければならないと思っている。

#### 3) ご家族への対応

契約書、入所時の担当者会議、契約時の説明の内容の見直しを行い、丁寧に説明するとにより、ご家族への理解へ繋げることが出来た。

今後もますますご家族の意向に寄り添った対応が必要とされているため、施設内・外での会議へより積極的に参加していくことが必要である。

・入所者・待機者の入退所状況および相談員の活動状況

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入所延べ日数	2,272	2,373	2,312	2,445	2,393	2,317	2,346	2,255	2,391	2,410	2,252	2,503	28,269
稼働率	92.4	93.4	94.0	96.2	94.1	94.2	92.3	91.7	94.1	94.8	98.1	98.5	94.5
待機者面接に行った人数	3	4	0	0	1	1	4	4	1	2	2	2	24
入退所委員会	1	2	1	2	1	1	3	1	2	3	1	1	19

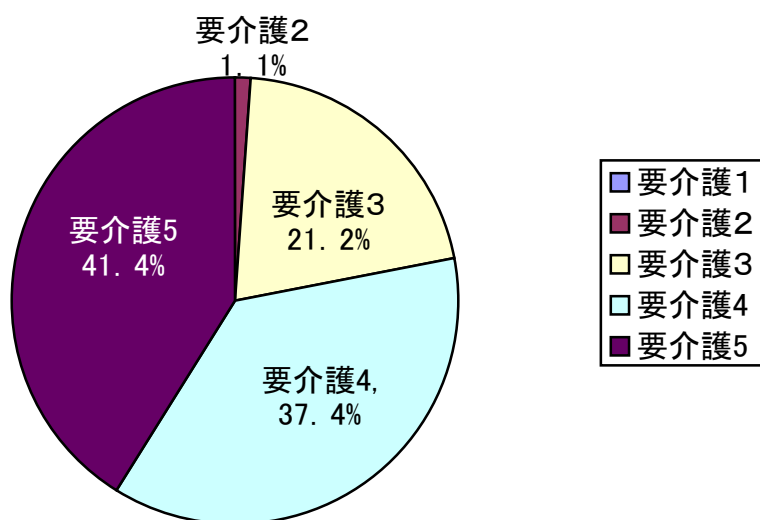
・特養入退所状況(平成29年4月～30年3月)

項目		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入所	性別	男	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	3
		女	0	1	3	1	1	1	0	2	1	1	1	1	13
	前の居所	病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		老健	0	1	3	1	0	0	0	2	1	0	0	1	9
		自宅	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	0	0	4
		グループホーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
		有料老人ホーム	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
		お泊まりデイ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	0	1	3	1	1	1	0	3	1	2	2	1	16
退所	性別	男	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	3
		女	2	1	2	0	1	0	3	1	1	0	1	1	13
	理由	入院	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
		死亡	2	0	2	0	1	0	4	1	2	0	1	0	13
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	死亡内訳	施設	1	0	1	0	0	0	2	1	1	0	1	0	7
		病院	1	0	1	0	1	0	2	0	1	0	0	0	6
	計	3	1	2	0	1	0	4	1	2	0	1	1	16	

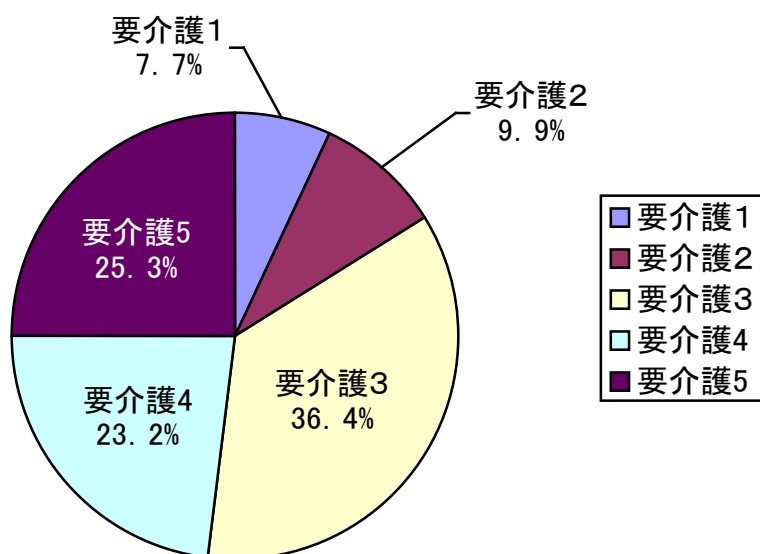
・退所日から入所日までの空床期間

空床	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	平均
H25	69	22	18	14	21	27	47	11	14											27.0日
H26	8	10	14	12	17	39	41	21	15	28	62	59	50	47	20	9				28.3日
H27	21	8	8	9	18	9	17	12	7	8	15	23	10	15	16	25	13	14	15	13.8日
H28	14	11	12	13	13	11	16	26	12	16	33	15	10	13						15.3日
H29	25	70	57	30	23	52	41	37	22	34	54	49	37	47	3	22				37.7日

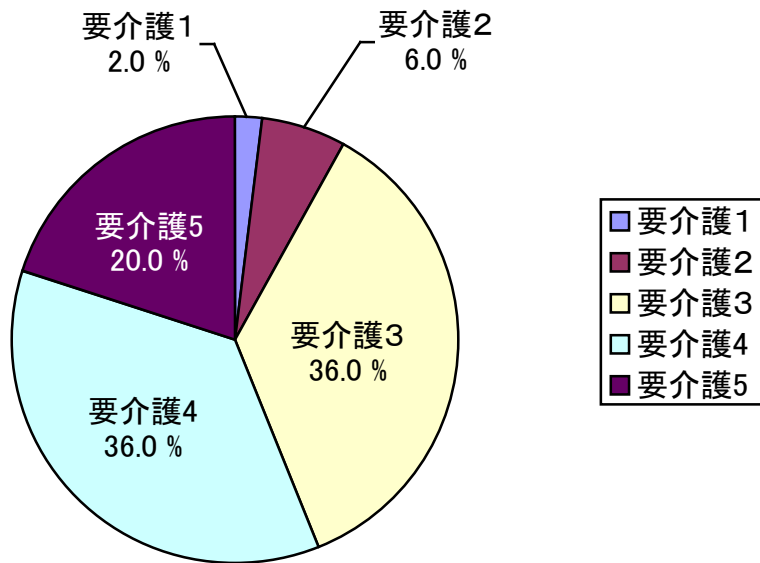
## 入所者の介護度割



## 東久留米市待機者割合



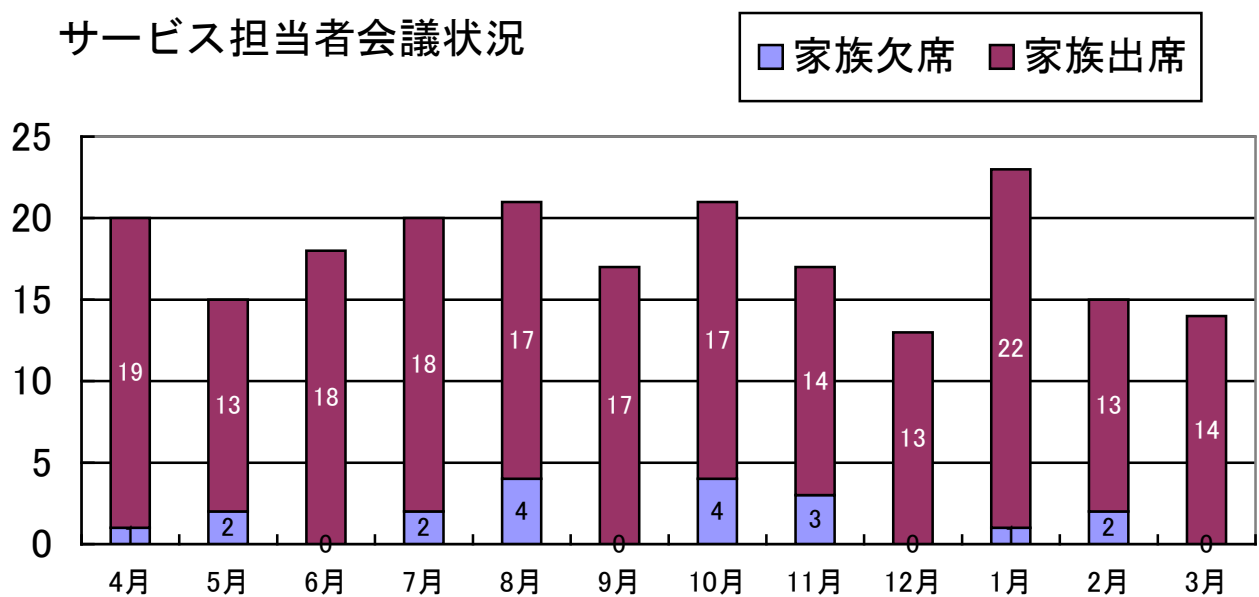
## 西東京市待機者割合



### 4) サービス担当者会議の実施

今年度も半年毎に担当者会議を実施し、ご家族へ日頃の情報共有やご家族の希望等を伺う会議を 214 回開催した。昨年度の 154 回から大幅に増加している。また、要介護認定の区分変更時や退院時、看取り開始時などの臨時の担当者会議を前年度は 54 回であったが、58 回と実施回数が増えている。これらは、入退院の増加によるものと考えられる。

### サービス担当者会議状況



## 5) ショートステイの利用状況

ショートステイは在宅で生活しているご利用者へ宿泊を支援するサービスであるが、昨年度は感染症対応などの影響で、1月から3月にかけて若干稼働率が下がったが、年間を通しては102.0%であった。今年度は、インフルエンザの感染もなく、ショートフロアでも発症しなかったため、感染症による影響はなかったが、ご利用者の重度化や、長期利用者のご逝去等により今年度の稼働率は前年度に比べて、-9.1%の92.9%となった。今後は、ショートのベッドを特養に返還するなど、体制を見直していく。

### ・ショートステイ利用状況(平成28月～29年3月の稼働率・介護度)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入所実人数	38	33	35	36	38	39	36	35	31	35	36	37	429
入所延人数	58	68	59	60	63	67	60	59	55	50	52	57	708
入所延日数	310	317	299	314	336	292	278	261	246	251	242	256	3392
キャンセル日数	38	39	85	43	29	33	51	43	53	31	45	29	519
追加利用日数	29	52	64	48	52	20	12	7	13	7	53	5	362
新規利用者	3	2	1	3	2	2	3	2	2	3	1	6	30
利用終了者	4	3	0	2	2	1	0	1	0	1	1	0	15
稼働率	103.7	102.3	96.3	101.3	108.4	97.3	89.7	87	79.4	81	86.4	82.6	92.9

## 2. 地域・関係機関との連携

平成29年度も、南町小学校の施設交流(平成29年10月11日)や地域の児童と施設利用者の交流を行った。また、ボランティアコーディネーターとボランティア委員会が中心となり、ホーム喫茶の内容の改定や今までの内容の見直しやマニュアル作りなどを行い、ボランティアの方々との連携をさらに強化できた。

	活動内容	延べ人数	備考
1	ドライヤーかけ	210	
2	ホーム喫茶	69	
3	園芸・植木関係	107	
4	傾聴	58	傾聴ボランティア『みみ』他
5	マッサージ	3	6月で終了
6	食事介助	15	
7	クラブ活動	220	茶道・華道・書道・フラワーセラピー・朗読・煎茶道・健康麻雀
8	音楽レク等	221	音楽・歌レク・シャンソン・フラダンス・ウクレレ・大正琴・オカリナ・ギター
9	シャローム祭	54	南町小学校・子どもセンターひばり・ご利用者ご家族等
10	出張販売・理美容 集会・慰問交流・コン サート等	458	わらべみなみ保育園・下里しおん保育園・南町小・東京三育小・広島三育高校・総合高校・自由学園・鶴鵬会・関町教会・ポケットランド・久老連・きらく会・なんくるエイサー・そよ風・わいわいクラブ
計		1415	(昨年度1471名)

### 3. 人材育成

今年度も昨年度に引き続き、介護福祉士、社会福祉士、看護師の実習生の受け入れを予定していたが、養成校の定員割れにより対象学生の減少、実習希望者の減少となり、キャンセルが相次ぎ、介護福祉士実習生は0となってしまった。

	学校・団体名	資格等	実人数	延人数
1	早稲田速記医療福祉専門学校	介護福祉士	0	
2	秋草学園福祉教育専門学校	介護福祉士	0	
3	東京国際福祉専門学校	介護福祉士	0	
4	日本社会事業大学	介護福祉士	0	
5	武蔵野大学	社会福祉士	0	
6	ルーテル学院大学	社会福祉士	0	
7	日本福祉大学	社会福祉士	1	24
8	三育学院大学	看護師	43	258
計			44	282



平成 29 年度事業報告	栄 養 課			課長 矢 口 春 江	
部門職員数 (平成 30 年 3 月 3 1 日 現在)					
課長	1 名	主任	0 名	副主任	0 名
				常勤	1 名
				非常勤	0 名
				合計	1 名
				総合計	1 名

## 1. 平成 29 年度「事業計画」の達成状況

### 1. 委託会社との連携と接遇

食中毒や感染症の発症防止の為、調理や洗浄作業の衛生管理の徹底を行ってきた。そのうえで毎日の食事の満足度は高いと感じている。又、行事食やデイサービスの誕生会食提供には委託会社と相互に円滑な連携を図る事ができ、喫食者から好評を得る事が出来た。

生野菜の使用は昨今の食材費高騰の為、特定の食材に限られてきている。

給食内容の改善と共に「富士産業株式会社」とは接遇マナーの向上とルール作りに付いて常に話し合いをもってきた。委託会社の接遇マニュアルに基づきその場に応じた言葉使いや態度の見直しも行ってきたが、人材不足もあり新人の教育が徹底できなかつた。新年度の課題である。

### 2. ムース食対象者は該当者なし。

ショート利用者の必要から始まった「軟飯」は食形態として定着している。

ハーフ食該当者は特養で 21 名、デイサービス、ショート利用者も増えている。栄養価の高い食材に食事の半量を置きかえる事で低栄養を防ぎ、食欲を取り戻す呼び水として大いに役立っている。食事時間や場所の選択については、受診の都合や体調に合わせて随時変更した。又、受診が長引くなど時間内に間に合わない時は同等の食事を再度提供した。

### 3. 栄養ケアマネジメント

「ほのぼの」の実施記録の項目を利用する事で食事形態の変更や栄養状態の情報を簡単に共有する事が出来ている。

褥瘡の治癒、体重の減少阻止、生活の質の向上を目指し、栄養補給だけでなく、介護課、看護課を中心に多職種での協働態勢や協同意識を持つ事ができている。

### 4. 介護課・在宅課などの「食」に関わる行事企画などに栄養課として関わり、食材や調理器具の調達、ご利用者との共同作業や調理など出来る限り協力した。

### 5. 厨房内の整備、及び備品購入

- ・今年度の予算の通り厨房内のスチームコンベクションの入れ替えを行った。事業計画には無かったが箸の追加、ミキサーの破損による修理も行った。

### 6. 研修活動

- ・保健所 栄養管理講習会 「食品衛生の最新情報と食中毒防止」  
「嚥下調整分類 2013 を応用した地域支援」

### 7. 災害時備蓄品は 1 日 200 名を想定し、最低でも 3 日分の備蓄と献立作成を行っている。

普通食が食べられない方が多いので粥やミキサー食、流動食を基本に備蓄しており、賞味期限前に日頃の給食献立に調理を工夫しながら取り入れている。

今年度は初めての主食の食事提供訓練を介護課と協力して行った。

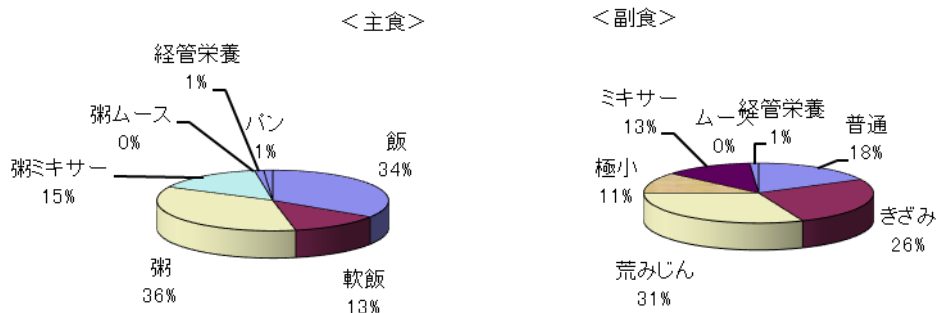
### 8. 東京都の委託事業である地域住民の食生活や栄養改善の知識普及を行う為に「栄養展」をイオンホールに於いて 9 月と 2 月の 2 回開催し多摩小平地区給食研究会会員として参加、協力した。

## 2. 部門業務資料

(1) 利用者の状況にあった適切な食事の提供。

- ア 主食・・・飯（おにぎり）・軟飯・粥・粥ミキサー ・粥ムース ・パン
- イ 副食・・・普通食 一般に食されているより軟らかく小さめ
- きざみ食 ティスプーンに乗る大きさ
- 荒みじん食 食材が分かる程度に細かく刻む
- 極きざみ食 カッターにかけ繊維を数ミリに砕く
- ミキサー食 ミキサーにかけなめらかな口当りに
- ムース食 なめらかだが形があり、舌で潰せる硬さ（朝食は除く）

### 食事形態の割合（平成 29 年 3 月 31 日現在）



ウ 禁食・嫌食に対し、個人的に食材の代替食対応多数。

エ 嗜好の把握及び献立への反映

[把握方法]	嗜好調査	随時	方法／ アンケート・個別聞き取り
	残食調査	毎回	方法／ 品目ごとの残食割合の調査
	喫食量の把握	毎食毎に	「摂食記録表」に記入。
	食事懇談会	年12回	給食委員会として
	嗜好カルテ	有り	

[反映状況] 代替食・複数献立

オ 適温への配慮 保温食器・厨房に隣接した食堂・直前盛り付け・時間差をつけた配膳  
保温庫、コンベクション、冷蔵庫の活用

カ 喫食環境 利用者の好みの音楽を流す。食堂から見えるテラスで植物を育てるなど心地よい環境を演出する工夫をしている。

キ 献立内容に合った食器の配慮

保温食器使用以外の料理についてはメニューに添った食器選択を毎回行っている。

ク 食事の為の自助具の種類

自助食器 5 種類、自助スプーン、ホーク、滑り止めマット、片手マグカップ、  
取り分け用小茶碗 その他障害に応じた食器・器具

(2) 療養食・経口維持

療養食の提供 食事箋 有り 医師の指示 有り

特別食（療養食）の献立表の作成 有り

提供者数 療養食 18 名・経口移行食 0 名

[療養食の種類／ 糖尿病食・腎臓病食・高脂血症食・心臓疾患]

毎月経口維持会議参加

(3) 経管栄養 クリニコ CZ-HIバックタイプ 1名

(4) 食事摂取困難者に対する食事介助（嚥下困難者、褥瘡発症者、その他）

嚥下困難者には個々に増粘剤を用いてその利用者の食べ易い濃度に調整してむせや誤嚥が起こらない様、注意して食事介助をしている。介護課で簡単に作れる水分補給用のイオン飲料ゼリーや、飲み込み易いミキサー粥、高カロリーゼリー、高蛋白質粉末などを使用。また褥瘡発症者には Zn,Fe,VA,VC を強化する食品の補給を心掛けている。

(5) 栄養指導の状況

摂食指導

ショートステイ利用者、家族、地域住民の食事相談及び指導

(6) 行事食等の実施状況

行事食

4月	お花見弁当	10月	お楽しみ食（松茸ご飯・鯖の立田揚げ）
5月	開設記念特別食・子供の日	11月	お楽しみ食（にぎり寿司・ケーキ）
6月	お楽しみ食（鰻ひつまぶし）	12月	冬至料理・クリスマス料理・年越しそば
7月	七夕行事食・土用の丑の日	1月	おせち料理・七草粥
8月	終戦記念日（すいとん）	2月	節分・バレンタイン・お楽しみ食
9月	防災食・敬老祝い御膳・彼岸	3月	ひな祭り御膳 ・ 春の彼岸

選択食 麵料理 50回

バイキング なし

外食・出前 誕生日など介護課で個別に実施

甘酒・餅つき・蕎麦打ち・茶話会などご利用者が参加する介護課・在宅課での食事作りに協力した。

(7) 食事時間（平成30年3月1日現在）

区分	朝食	昼食	夕食
食事時間	8時00分～8時40分	12時00分～12時40分	18時00分～18時40分
検食時間	7時45分～8時00分	11時45分～12時00分	17時45分～18時00分
検食者（職種）	宿直者	全職種交替	夜勤者

(8) 栄養量等の状況

基準栄養量は、厚生労働省の定める生活活動強度と年齢別、男女別から割り出した当施設における平均栄養基準量を使用し、本年度は男女平均年齢85歳として算出した。

基準値に満たないカルシウムや食物繊維は付加を行っている。時折ビタミンC、ビタミンB類が基準値を下回る時がある。

(9) 検査用保存食

保存期間 2週間 保存温度 -20℃以下

食品ごとの分別保存・調理済み食品・原材料・おやつ等 . . . . .有り

1件体当りの保存量 50g

(10) 調理従事者等の衛生管理（検便）は毎月2回実施

- (11) 食器、食材料の衛生管理  
ア 食器消毒方法 次亜塩素酸ナトリウム及び熱風乾燥保管庫  
イ 衛生管理の自主点検表 有り
- (12) 調理業務の状況 委託 施設単独
- (13) 食中毒及びO157、ノロウイルス予防策  
手指の洗浄消毒の励行（ティペックスA、食品用殺菌アルコール）  
厨房内の清掃と殺菌（紫外線殺菌灯、食品用殺菌アルコール、塩素）  
まな板、包丁等調理器具の洗浄、殺菌（中性洗剤、紫外線殺菌灯、殺菌アルコール、塩素）  
水質管理 （残留塩素の測定）  
調理従事者の検便と健康管理 生野菜、生果物の塩素による浸漬と十分な洗浄  
75℃以上2分以上の十分な加熱調理 食材納品時の温度、品質管理
- (14) 保健所の指導・・・・・・・・今年度は特に指導はなし。

平成 29 年度事業報告	看護課	課長：武田 忠雄
--------------	-----	----------

部門職員数（平成 30 年度 3 月 31 日 現在）

課長 1 名	主任 1 名	機能訓練指導員 1 名	常勤 2 名 非常勤 6 名	合計 5 名 総合計 11 名
--------	--------	----------------	-------------------	--------------------

目標としている「知識と技術と人格で織りなす人を癒す芸術の看護」の域にはまだまだ達していないが、常に研鑽を忘れず技術を高め、幅広いスタッフ各世代の知恵と知識を結集し、専門職としてプロ意識を持ち、各課をリードして、計画の達成に邁進した。

## 平成 29 年度「事業計画」達成状況

### 1. 健康管理と保健衛生の強化

訪問診療については、毎週木・金曜日に内科医、月 2 回の土曜日に精神科医、不定期に皮膚科医、毎週月曜日の訪問歯科の診療が継続された。また、継続して経口維持加算の算定にも関わっていただき、スムーズに算定を実施する事ができた。歯科衛生士の口腔ケアの訪問日も継続でき、充実した体制となった。各医師、歯科医師、歯科衛生士とも連携がとれ、様々なことに適切に早急に対応できた。

病院受診件数は昨年度と比べて 3 件増加、入院件数は昨年度より 4 件減少し 49 件となった。入院延べ日数においては、2 日増加した。これは、数値的にはほぼ横ばいであるが、入院件数が減少したのに、延日数が増えているという事は、入所者の重度化が確実に進み慢性疾患の末期状態などの重篤な方の増加があり、入院期間が長引いたと考えられる。入所者の医療依存度も高くなってきており、状態の変化も激しい為、家族との連絡を密にして、定期受診等はできるだけ家族の協力を得られるようにした。

健康管理では例年通り 6 月に全職員、10 月に入所者全員と夜勤者の健康診断を実施した。インフルエンザの予防接種は、本年度は、全国的にワクチン不足があり、当施設も例年早目に注文していたが、いつもの数の半分しか入ってこなかった為、利用者は優先的に全員摂取し、職員の場合は優先順位を決め摂取予定者決定し対応した。摂取予定対象者以外のスタッフは、外部の医療機関で接種されるようお願いした。ワクチン不足により接種時期も例年より遅れ、利用者が 11 月、職員は 11 月下旬から 12 月に実施した。結果的には、スタッフの理解と協力により、予防接種を受けた方は、昨年と同等数に上った。

快食、快眠、快便、快感の生活に向けては、各課と情報を共有し、各担当医とも連携を取りながらベストを目指し対応できたと思う。

機能訓練については指導員が中心となり計画作成。個別及び集団訓練、車椅子やクッションの選定など積極的にかかわり、ADL の維持とより安定した生活が送れるようサポートを続けることができた。

### 嘱託医・往診医による回診状況

	内科	精神科	歯科	皮膚科
回数	週 2 回	月 2 回	月 4~5 回	随時
医師名	矢澤（木） 陸川（金）	高野（土）	町田・坂口 （月）	佐瀬（火）
月平均診療者数	166 名	36 名	60 名	9 名

受診状況

<月別件数>

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
H27	28	14	23	35	33	26	30	17	22	31	24	19	302
H28	15	25	26	22	23	30	16	14	29	25	29	27	281
H29	29	21	25	24	29	28	23	21	27	17	12	28	284

<診療科別件数>

診療科	内科	外科	泌尿器科	眼科 耳鼻科	整形外科	皮膚科	婦人科	神経科	歯科	精神科	その他	計
件数	84	8	42	28	41	39	1	0	1	0	40	284

<受診先病院別>

病院名	滝山病院	西東京中央 総合病院	昭和 病院	佐々 病院	多摩北部医 療センター	田無 病院	前田 病院	おだやか CL	その他	計
受診数	96名	40名	11名	11名	19名	15名	11名	3名	78名	284名

<入院件数及び各月の延べ日数>

年	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
H27 年度	件数	2	2	4	8	5	2	1	2	3	8	5	5	47
	日数	22	13	44	150	87	91	59	34	27	153	94	69	843
H28 年度	件数	0	8	7	6	4	4	3	4	5	2	3	7	53
	日数	23	82	118	113	126	79	143	80	111	64	42	91	1072
H29 年度	件数	5	2	4	3	10	7	5	5	3	2	0	3	49
	日数	157	89	73	52	119	129	156	115	65	71	28	20	1074

<入院期間と退院者数>

入院期間	1～15日	16～30日	31～60日	61～90日	91日以上	計
H27年度	24	14	5	3	0	46
H28年度	22	16	10	1	0	49
H29年度	22	23	7	2	0	54

\*注：退院月に参入

<入院時診断名別割合>

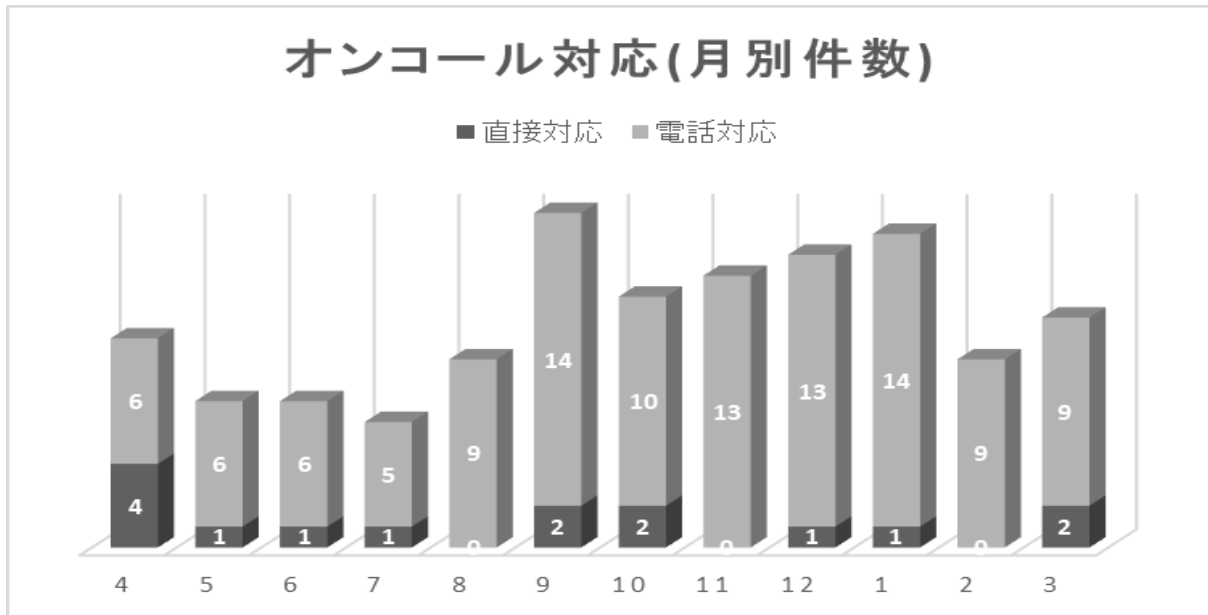
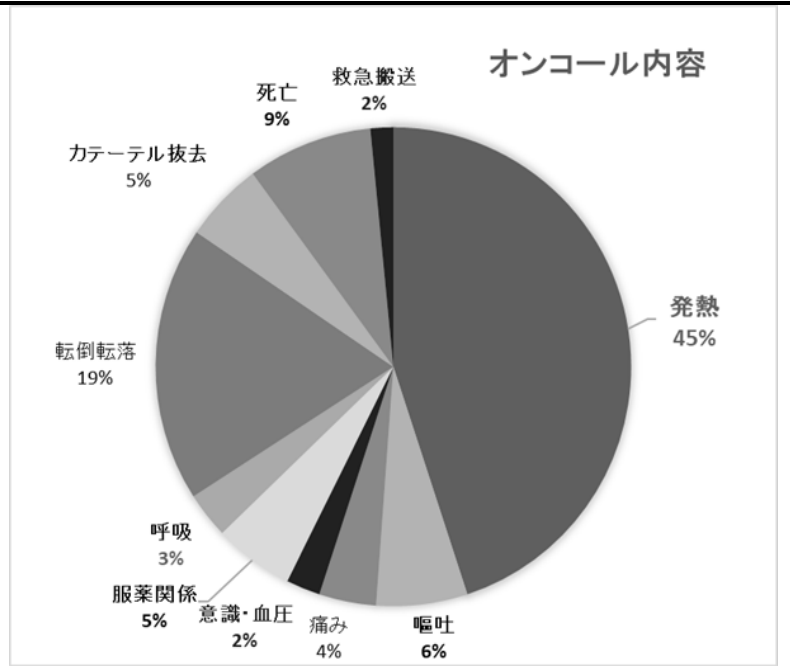
診断名	肺炎	心疾患	消化器疾患	泌尿器疾患	骨折	脳疾患	その他	計
入院件数	20名	2名	2名	11名	3名	4名	12名	54名

## 2. 緊急時体制の充実と人材育成 及び人材確保

オンコール体制については、5名の常勤と非常勤職員の電話のみのオンコール対応でオンコールシフト回数の負担の軽減を図ってきた。しかし、体調不良により長期に休まれる職員が2名出てきたことで、月に7～8回のオンコールシフト回数となり、スタッフから厳しいとの声も聞かれている。

緊急受診対応については、各業種と連携のもと、スムーズに対応できてはいるが、まだ、対応に不慣れな職員もおり、

さらなる教育が必要と考える。オンコール総件数は、一昨年度が77件、昨年度が95件、今年度は129件と毎年増加している。昨年と比較しても34件増加。内訳は、直接対応は、19件から15件と4件と減少したが、逆に、電話対応は、76件から114件と38件増加した。平均すると3日に1回の割合のオンコールである。これは、入所者の重度化が影響していると考えられる。日勤帯の早期判断と早期対応が夜間のオンコールの負担を軽減させると考える為、多職種や家族との情報の共有と主治医や病院との連携に努めた。



人材確保は、今後とも継続して取り組んでいく課題である。今年度も常勤1名、非常勤2名の方が入職されたが、結局、常勤1名と以前から働いていた非常勤2名の方が退職し改善にはなっていない。

人材育成については、各人が、各種研修に積極的に参加し研鑽した。職員会、新人職員対し、各課の枠を超え研修を行った。

### 3. 感染症管理体制の継続と予防の強化

前年度は、3月下旬に職員のインフルエンザ感染を皮切りに1階入所者7名に感染し、4名の方が肺炎の合併症を起こし入院となったため、今年度は、同じ轍を踏まない様、感染症シーズンが終了するまで油断しないと決め、「発生させない・広げない・もらわない」三原則と、スタンダードプリコーションの徹底、「職員の感染症の持ち込みはゼロにしよう！」をテーマに取り組んだ。

今年度は、ワクチンが不足していたことと入荷が遅れたことで、予防接種時期が遅れ不安であった。また、A型B型ともに流行し、近隣の施設や学校で感染拡大、スタッフやスタッフの家族、在宅事業所の職員や利用者でも感染がみられた。厳しい状況の中、結果として、目標としていた特養入所者のインフルエンザ・感染性胃腸炎の感染者ゼロを達成する事が出来た。

また、一つのフロアで風邪症状の広がりがみられたが、他の階に感染拡大せずおさまった。それは、感染症に対する取り組みが効果を上げていることと、各階での入浴対応を行ったことで、フロア間の移動が少なくなり、効果があったと考える。

循環型機械浴槽のレジオネラ対応は、保健所の指導の下、対応を継続して行い入浴は行えている。感染症と言えばノロウイルスとインフルエンザに注目しがちだが、今年度も薬剤性耐性菌のMRSA, ESBL, 肝炎ウイルス保菌者の方が、入所者として増加しつつあり、スタンダードプリコーションの徹底を図りながら、居室移動など対応に苦慮している。

また、特養の入所区域内に包括支援センターの事務室が移設されてきている。感染症が発生した際の隔離対応(個別、ブロック、ゾーン、フロア、事業所など)について、改めて対策を立てる必要がある。2階の浴室も脱衣所が整備されていないため、感染症対応中に使用した際、利用者からの不満や苦情も出ている。まだまだ、スタッフ教育や浴室の整備等、改善していかなければならないところが多々ある。次年度も継続して取り組んでいく。

### 4. 看取りケアの充実

今年度は、16名の方が退所されたが、そのうち13名の方が亡くなられ、うち7名の方の看取りケアを実施する事ができた。病名は、5名が老衰、1名が肺癌、1名が慢性腎不全であった。看取りケアの日数は、最短で1日、最長で40日間、平均で11.57日であった。

看取りケアの中では、様々なエピソードに出会うことができ、その人らしく、また、その方が選んだかのように、その方にとって一番いい時間でのお別れをすることができた。亡くなられた方の表情は、いまにも起き出しそうな表情で、柔らかな笑みを浮かべている方ばかりであった。

ご遺族の感想の中で、感謝の言葉とともに、「自分たちも、将来ぜひシャローム東久留米でみていただきたいので、予約したい」と話される家族もあり、最高の賛辞と受け止め、スタッフにも報告させていただいた。このように、家族・スタッフ共々に納得の看取りケアをすることができ、家族にも感謝されることができた。

看取りケアを深めるため、研修への参加やターミナル委員会での話し合い、フロアスタッフによる振り返りも実施した。また、当施設の見取りケアをテーマに「アクティブ福祉イン東京17」で研究発表をすることができた。次年度も入所者や家族の意向をさらに反映させるため、平穏時からの意向確認やさらなる情報収集を図り、看取りケアだけを意識せず、つねに尊厳を持ったケアを行っていく事が大切であると再認識した。



## 看取りケア

項目 年度	総退所者	看取り	施設・ 病院死亡	転院	～10日	～20日	～30日	30日 以上	平均日 数
H27	20	8	7	5	4	1	2	1	16.1
H28	13	4	4	5	3	1	0	0	8.75
H29	16	7	6	3	6	0	0	1	11.57

## 5. 関連部門との連携協働を図る

特養関連部門では、定例会議はもとより、問題や事故等が起これば随時課長が集まり話し合い、細かな連携をとることができた。

研修や教育も、協力して計画し常勤・非常勤ともに人材育成に取り組めた。

褥瘡は、「褥瘡ゼロ」を目標に取り組んだが、褥瘡発症者4名を計上するに至り、目標の達成は厳しかった。これは、利用者の重度化や、長期入院により病院で褥瘡を形成してしまった方などが原因である。早期の耐圧分散型のマットレスの選定や、正しいポジショニング対応、主治医や皮膚科医としっかり連携を取り、褥瘡委員会を中心に、今後も「褥瘡ゼロ」も目標に向け取り組んでいく。

機能訓練については、指導員と看護介護スタッフとの協同で取り組み、更なる充実に向かっている。機能訓練指導員は、車椅子、座面クッション、ベッド上の体位交換クッション、などの選定も担当し、機能維持のために懸命に取り組んだ。

外部実習受け入れについては、今年度も三育学院大学看護学科の実習を受け入れたが、43名延べ258名の学生を受け入れ指導している。また、三育学院大学看護学科1年生の見学実習や社会福祉士の実習も受け入れ、未来の人材育成ができた。

平成29年度 事業報告	管 理 課	課 長：清 水 浩 二
-------------	-------	-------------

部門職員数（平成30年 3月 31日 現在）

課長 1名	主任 1名	副主任 0名	常勤 2名 非常勤 2名	総合計 6名
-------	-------	--------	-----------------	--------

## 平成29年度「事業計画」の達成状況

### < 課題と実施計画 >

#### 1. 「業務省力化」と「目標予算管理」の徹底

##### 1. 「業務省力化」による効率化と「目標予算管理」の徹底

・日常業務における「業務省力化」について。

##### ① 基幹システム（財務・勤怠）のアップグレード

勤怠システムは、これまで使用していたアマノ株式会社のシステムを更新し、TimePro-NX就業システムSを導入したが、勤怠管理の作業を効率化するまでには至っていない。

##### ② e-Gov（電子申請システム）の活用

電子証明書の取得方法については、法務省からソフトをダウンロードし、作成した申請書類を田無法務局に提出、その後、シリアルナンバーを取得し、e1taxにて法人の登録手続きを行ったが、市区町村側の対応が今だ十分でなく、運用の実施には至っていない。

##### ③ 業務手順や業務内容の見直し

「伝票オプションシステム」の導入により、入力日付、勘定科目、金額、適用欄などの仕分データをエクセルまたはCSV化したデータから直接、財務会計システムへインポートことが出来るようになり、以下のような業務省力化が実現できるようになった。

- 1) インターネットバンキングから出力された預金取引情報をCSV等にデータ変換し、インポートデータとすることで、入力エラーの検証に時間を費やす手間が省けた。
- 3) 未収金・人件費・減価償却費・賞与引当金繰入・普通預金・小口現金・未払金などの各サービス区分貸付金借入金勘定など会計に係るすべて（現金出納は除く）をインポートデータ化した為、作業効率が改善され、負担の軽減にもなった。
- 4) インポートデータを作成する事で仕訳数を減らし紙ベースでの伝票・証票枚数を以前の約半分にまで圧縮する事ができた。

※今後は、会計原簿のペーパーレス化、現在は担当行政により許可されてはいないが、紙ベースでの伝票・証票類の電子保存化に向けて取組を重ねたい。

・「予算管理」の徹底

定期的な予算分析を実施し、財務上の問題点等を確認することができた。

- ① 予算分析・月次経営分析会を隔月ごと（8月、10月、12月、2月）に開催し、会計事務所が作成する月次経営分析会議を開催し、サービス区分毎の予算実績状況の確認を行った。  
表1の通り、決算における介護保険事業収入の資金収支額は、当初予算に比べて1,390万円程減収となった。特にショートステイは、△335万円となり、稼働率も前年度と比べて△9.1%となった。また、居宅介護支援事業所では、稼働率は1.8%上がっているが、介護支援専門員の不足により、特定事業所加算ⅡからⅢに下がり、当初予算と比べて△31%の△719万円となった。

<表1 事業収入 予算増減額>

(万円/%)

	特 養	ショート	南沢デイ	訪 問	居 宅	幸町デイ	中部包括	GH 白山	本天沼	合計
当 初	35,953	4,307	7,667	4,950	2,337	6,236	6,072	4,363	4,550	76,453
決 算	35,689	3,972	7,528	4,559	1,618	6,607	6,255	4,134	4,683	75,045
増 減	△264	△335	△139	△391	△719	371	183	△229	133	△1,390

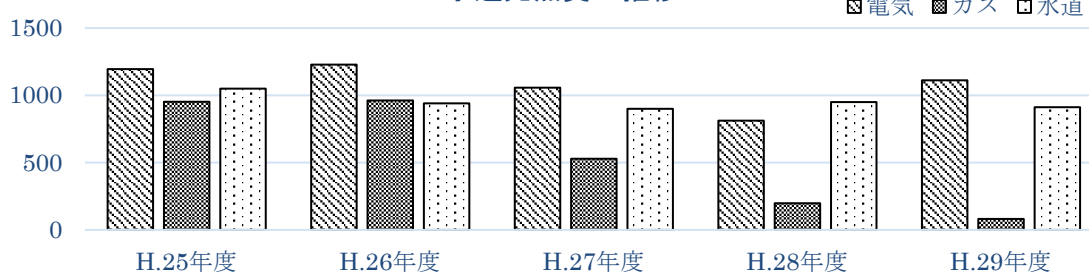
<表2 稼働率等 増減>

(%/時間)

	特 養	ショート	南沢デイ	訪問 (時間)	居 宅	幸町デイ	GH 白山	本天沼
28 年度	95.9	102.0	80.0	1070	84.0	87.6	87.9	98.1
29 年度	94.5	92.9	75.7	1004	85.8	91.2	91.5	99.3
増 減	△1.4%	△9.1%	△4.3%	66 時間	1.8%	3.6%	3.6%	1.2%

- ② 分析により前年度と比べて収益が減少していること、そして千葉事業所の資金繰りの悪化により、急遽2,000万円を貸付ける必要が生じたことにより、今年度、リプレースを予定していた特養のナースコール (1,600万円) については、介護課長と相談の上、次年度に見送ることとした。また、介護ベッドの購入も3台までとしている。
- ③ 経費のうち事業費の約30%を占める「水道光熱費」については、昨年度より電気式ヒートポンプ式の給湯システムに変更したことで、ガス料金は大幅に下がったが、電気料金は平成27年度以前と比較するとほとんど差はないが、前年度と比較すると37%の上昇となり、「水道光熱費」としては、138万円アップする結果となった。

水道光熱費の推移



その他の経費について、EPA の導入により JICWELS (国際厚生事業団) に支払う研修費等により、「研修研究費」が108万円アップし、調理委託業者 (富士産業) の食材費単価が上がったことから、「業務委託費」164万円上昇している。

## 2. 「経営分析」による短期・中期的な事業体制の分析

### ① 本部拠点の設置

平成31年度から開始する杉並区上井草障害福祉サービス事業に対する資金準備の為、高齢事業から障害事業への資金の流用を可能とする為、本部会計を設置した。しかし、社会福祉法人経理規定準則により、資金の繰入は、経常活増減差額が黒字かつ当期資金収支差額に資金不足が生じない範囲であることが資金移動の条件となっている。当年度の当期資金収支差額は490万円程のプラスであったが、更に修繕積立金等の取崩を行う必要があると考えている。

### ② 経理規定の変更

社会福祉法、社会福祉法施行令及び施行規則が平成29年4月1日に施行されるに伴い、社会福祉法人の経理規程の改訂も必要となった為、経理規定の変更を行った。主な内容については、「内

部監査及び任意監査に関する事項」、「社会福祉充実計画に関する事項」、「財務諸表から計算関係書類への表記変更」及び、「計算関係書類の監査、承認、届出、公表に関する事項」が盛り込まれている。

### ③ WAM財務諸表等電子開示システムの入力

社会保障審議会福祉部会報告書（平成27年2月）、規制改革実施計画（平成26年6月閣議決定）において求められている社会福祉法人における運営の透明性の確保、国民に対する説明責任を果たすために必要なものとして、国において情報を収集し、全国的なデータベースを構築するとともに、一覧性・検索性を持たせたシステムとして構築され、WAM（福祉医療機構）が設置した開示システムへの入力等を実施した。

## 3. 「キャリアアップシステム」の構築に向けた取り組み

- ・「キャリアアップ段位制度」等を参考に介護職員の評価システムに向けた取り組みについては、特別養護老人ホームでは、期中に常勤7名、パート職員5名が退職したことから、アセッサー等の研修に参加できる職員を確保することが困難となり、今年度の取り組みは見送らざるを得なかった。次年度において、評価項目を参考に独自の評価制度の構築を試みていきたい。

## 4. 「施設整備」に対する取り組み

- ・経年劣化に伴う設備の補修やリプレイスを行うと同時に、及び施設環境の整備を実施する。
  - ① 介護フロアの労働環境の改善に向けて、新たなナースコールシステム導入を検討していたが、上記の資金繰りの問題もあり、今年度は実施を見送ることとなった。
  - ② 介護用ベッドの劣化により新規に3台を導入し、パソコンも5台リプレイスしている。
  - ③ 特養の1階から3階の各フロアにおいて、ご利用者共用トイレ前に棚を設置し、これまで汚物処理室に収納していた紙おむつ等を衛生区域に確保することとした。また、3階のエレベーター前に設置していた食器棚等を撤去し、鉢植えや図書を収納できる棚に変更した。
  - ④ 1階洗濯室で使用していた全自動洗濯機を新型の機種にリプレイスした。
  - ⑤ 建物各所の修繕及び、清掃管理を継続的に実施する。

昨年度末より、スプリンクラーの圧力が低下する現象が起きており、ビルメンテナンスを担当する日立ビルシステムとシャローム東久留米の施工業者である清水建設株式会社に調査を実施して頂いたが、原因は明らかになっておらず、いまだに毎日0.1kg程度の圧力低下が続いている。しかしながら、配管に水漏れが発生しているような状況ではないとの診断から、定期的にスプリンクラー本体を起動し、圧力を調整しながら確認を継続していく。

「清掃管理」については、介護現場が希望する清掃時間や回数を調査し、清掃時間等の調整を行うことで、ご利用者に対する精神的な負担も軽減できるように努めた。

## 5. 「法人組織体制」の確認と見直し

- ・平成29年度から組織される新たな評議員会、理事会等の運営と執行について確認を行った。

今年度の理事会年間7回開催することとなった。東京事業所では平成31年度から開始される杉並区上井草の障害福祉サービス事業について進捗と決議について、また、千葉事業所では厳しい財政状況に関する定期的な確認と今後の運営について審議を行った。また、3月の理事会では財政的な改善策として「放課後等デイサービス」事業の開始について決議を行った。
- ・三法人一本化の準備として、三法人の規程やガバナンス体制の共有の為、事務会議を開催する。

三法人の一本化については、各法人の設立吸引経緯や組織のあり方が異なることや、現在、懸案となっているプロジェクト等が持続していることから、一本化の時期を改めて検討することとなった。

## 6. 職員の状況

### ① 職員配置について

(平成30年3月31日現在)

部門 職種	シャローム東久留米			シャローム南沢			中部地域包括支援センター			幸町デイサービスセンター			グループホーム白山			シャローム本天沼			重症心身障害児通所施設わかば			合計		
	特養・ショート			デイ・居宅・MLA																				
	職員		パート	職員		パート	職員		パート	職員		パート	職員		パート	職員		パート	職員		パート	職員		パート
	常勤	実数	P常勤換算	常勤	実数	P常勤換算	常勤	実数	P常勤換算	常勤	実数	P常勤換算	常勤	実数	P常勤換算	常勤	実数	P常勤換算	常勤	実数	P常勤換算	常勤	実数	P常勤換算
施設長	1																				1	0	0	
ワカバ長、ホーム長				1			1			1			1			0.5			1			5	0	0
事務員	3	1	0.5		2	1.6		1	1.1												3	4	3.2	
相談員	2			1			6			1											10	0	0	
看護師	4	4	2.6		2	1.2				3	0.5							1	4	1.3	5	13	5.6	
ケアマネジャー	2			3				1	1												5	1	1	
ケアワーカー	29	27	13	3	6	3.8				3	6	3.8	3	7	5.7	4	7	4.9			42	53	31.2	
洗濯員		4	2.5																		0	4	2.5	
ホームヘルパー				3	16	5.8															3	16	5.8	
保育士																		2	3	1.4	2	3	1.4	
栄養士	1																				1	0	0	
運転・清掃	1	1	1		5	1.8															1	6	2.8	
医師		3	0.1																		0	3	0.1	
機能訓練指導員	1			1														1	2	0.3	3	2	0.3	
音楽療法士		1	0																		0	1	0.03	
その他		2	0.8																		0	2	0.8	
小計	44	43	21	12	31	14.2	7	2	2.1	5	9	4.3	4	7	5.7	4.5	7	4.9	5	9	3	81	108	54.7
職員合計	87			43			9			14			11			11.5			13.5			189		
常勤換算計	64.5			26.2			9.1			9.3			9.7			9.4			7.5			135.7		
入職者	9	4	1.9	4	5	2.4	3			5	2.6							1	0.3		16	15	7.2	
退職者	7	5	2.7	2	3	1.5	2			8	3.2		1	0.5		3	2.1		1	0.1	11	21	10.1	

### ② 平均年齢・平均勤務年数・有給取得率

項目 職種	平均年齢(歳)		平均勤務年数(年)		有給取得率(%)	
	常勤	パート	常勤	パート	常勤	パート
生活相談課	40.3	61.0	2.8	5.0	13.2%	44.7%
生活介護課	38.0	61.5	7.4	8.9	16.9%	56.2%
管理課・栄養課	54.0	30.5	17.0	5.0	42.0%	76.8%
看護課	50.3	54.5	5.4	4.8	48.6%	78.6%
在宅福祉課	47.2	56.2	10.8	5.3	32.3%	58.4%
ホームヘルパー	45.3	58.8	10.3	12.6	37.8%	91.0%
居宅支援	44.0	49.0	7.0	3.0	21.2%	71.4%
幸町デイ	47.0	56.0	10.6	2.0	42.0%	74.7%
支援ワカバ	47.3	57.0	8.2	4.5	55.8%	78.1%
GH白山	53.2	53.7	13.5	9.8	56.6%	65.0%
本天沼	38.2	53.0	14.0	7.7	49.3%	100.0%
重心わかば	34.6	42.6	5.0	1.8	40.9%	100.0%
全体	42.9	56.1	8.5	7.0	34.1%	70.6%

## 7. 防災訓練等

日時	訓練	種別	対象	参加者人数
4月3日	新入職員防災避難訓練	消火訓練	平成29年度新入職員	(職員 12名 利用者 0名)
7月19日	BCPIに基づく大震災時食事提供	地震訓練	特養2階	(職員 5名 利用者 34名)
9月6日	自衛消防訓練活動審査会	通報・消火訓練	特養	(職員 2名 利用者 0名)
11月10日	昼間避難誘導訓練	通報・消火訓練	南沢デイ	(職員 5名 利用者 25名)
11月15日	BCPIに基づく大震災時避難対応	地震訓練	特養	(職員 3名 利用者 0名)
3月3日	総合防災訓練	通報・消火訓練	全館	(職員 21名 利用者 82名)

第三者評価 〔全体の評価講評：指定介護老人福祉施設〕

平成29年度

《事業所名：シャローム東久留米》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	地域との交流・連携のもと、利用者の生活の幅を広げ活性化させている
	内容	昨年度延べ約1500人のボランティアが来所され、生活支援、クラブ活動、音楽レクリエーション、傾聴など多彩な活動を通じて利用者と楽しく交流している。近隣小学校との交流も深まり、今年のシャローム祭には30名ほどの小学生がボランティアとして参加し、お祭りを大いに盛り上げることができた。子供達を通じ、その両親や祖父母、先生方との繋がりも一層深まるという二次効果も出ている。常に地域還元等で事業所としてできることを検討・実施しており、地域住民が気軽に福祉等の相談に来所できるよう地域との輪を一層広める取組みも進んでいる。
2	タイトル	工夫を凝らした行事食や手作りおやつ、様々な食の企画など、食の楽しさを提供している
	内容	管理栄養士は毎日食事の場を巡回し、食事状況を確認している。利用者から直接感想を聞いたり、職員から利用者の摂取状況や食事の硬さや形状が適切であったかなどを確認し、給食業務委託会社と密に連携し、工夫を凝らした行事食や毎日の食の充実に取り組んでいる。また、フロア毎の「利用者懇談会」や、居室担当による「利用者満足度調査」等で、希望のメニューを聞いて給食委員会を通じて反映に努めている。具体的にはベランダでのサンマの炭火焼き、焼き芋やチョコフォンデュ、外食等が人気で、利用者調査でも高い満足度が示されている。
3	タイトル	「接遇・マナーの向上」に継続して取組み、利用者に寄り添った「心が伝わる」接遇を心がけている
	内容	理念の実現や職業倫理、法令順守等も併せて「接遇・マナーの向上」を年間目標に掲げ、継続しての取組みが今年で5年目を迎えている。当初は言葉遣い等接遇の基本事項から始めた取組みであったが、利用者の尊厳の尊重や「心が伝わる」接遇へと発展し、今年度の家族調査では全家族が「接遇はできている」と回答する等その成果は顕著に現れてきている。職員意識や実践面での更なる向上や充実を図り、利用者に寄り添ったサービスが提供できるよう事業所全体でレベルアップを図っている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	さらなる中堅職員育成への取組みに期待する
	内容	事業所では個別研修計画を作成し、職員の自己目標達成に向けて支援を行うと共に、外部研修等の機会を活用して組織の中で必要な人材となるようにしている。特に階層別の研修の強化を図り、中堅層に対しては、長期的な計画と位置付け、継続して今年度も力を入れて取り組んでいる。中堅層の中から一般職員へのOJTを始め、伝達研修や指導等がまだ不十分である等のリーダーとしての自覚や気づきもでており、育成の効果が確実に出てきていると思われる。今後もさらに研修プログラム等の充実・推進を図り、中堅層の育成に努められることを期待している。
2	タイトル	職員の負担軽減や業務の効率化・改善に向け、様々な取組みを一層進めて行かれることを期待している
	内容	事業者ではこれまでも介護や看護記録等のIT化を継続して進め、記録業務の簡素化や効率化を図り、職員の負担軽減や業務改善、情報共有化に取り組んできた。また無線LANの導入を行い、更なるIT化も進めている。併せてフロア毎に少しずつ異なっているシフト体制の事業所として一体化や食事介護等介護現場の実態に即した支援や介護が実践できるよう、手順やマニュアル類の見直しも検討している。職員の更なる負担軽減や業務の効率化・改善に向け、これら様々な取組みを一層進めていかれることを期待している。
3	タイトル	計画的な人材確保のシステム作りを構築していかれることが望まれる
	内容	福祉業界では人材確保が大きな課題となっているが、事業所としては人材確保は健全経営に不可欠として積極的な取組みを行っている。今年度、次年度と続いてEPA制度を活用してインドネシアからそれぞれ2名の介護人材の採用が決まり、中長期的視点でこれまで行ってきた独自の新規採用ルートの開拓が実を結んだ結果となった。利用者の重度化やニーズの多様化に伴い、職員の負担は増えていると思われる。職員の負担軽減や利用者満足の上昇のため、今後もさらに計画的な人材確保のシステム作りが取組まれることが望まれる。

部 門	報 告 責 任 者
チャプレン	我 謝 悟 ・ 村 上 亮

## 平成29年度「事業計画」の達成状況

「法人の基本理念を大切にし、職員の働きが、少しでも利用者やご家族の皆様、地域の方々に潤いや感動、希望や勇気を与える働きができるように、支援していく。看取りケアのさらなる向上、スピリチュアルケアの実践に寄与する」という目標をもとに具体的な働きを見つけていく年度となった。

前年度よりもご利用者と関わることができたと思う。課題として傾聴の方法や看取り時のかかわり方など、さらなる経験と専門的な知識の必要性を感じた。福祉機関におけるチャプレンの働きの可能性を探る1年であったように思う。

1. 当施設の特徴の一つである看取りケアをより一層質の高いものとしていくための協力をする  
介護課長や主任、居室担当者の指示を受けて看取り対象のご利用者に寄り添うことを心掛けた。  
さらなる学習と実地経験はもちろんのこと、日ごろのご利用者とのかかわりの中で、その人を理解することの大切さを感じた。
2. 地域への働きをサポートするために、ボランティアコーディネーターを補助し、行事やイベントの協力を通して各部署の連携のサポートをする。  
開設25周年ボランティア感謝の集いの企画実行のサポートすることができた。また、広報委員として広報誌の作成に携わった。次年度も地域に対する働きかけと施設の情報発信を行っていきたい。
3. 心の糧（土曜日）・聖書のお話（水曜日）などを通して心の安らぎを提供する  
聖書のお話（水曜日）の実施回数と出席人数と平均  
4月：1回5名。5月：4回11名。6月：2回6名。7月：2回4名。8月：1回1名。  
9月：2回2名。平均2名  
  
心の糧（土曜日）の実施回数と出席人数と平均  
4月：2回61名。5月：4回 134名。6月：4回110名。7月：5回125名。8月：3回87名。9月：5回123名。10月：2回 46名。11月：3回63名。12月：3回92名。1月：1回28名。2月：2回57名。3月2回49名。平均27名  
時事や季節の話題からお話を考えるようにした。ご利用者の経験値と重なる話題を考え、理解しやすい内容でお話しすることを心掛けた。今後も向上を図っていきたい。なお、現在、水曜日に行われていた聖書のお話は休止にしており、別のプログラムを思案中である。
4. 法人の働きなど、必要に応じた支援をする。  
必要に応じた支援ということでは、今年はグループホームの支援だけでなく、委員会に関わったり、季節ごとの行事などで必要な役割が与えられたと思う。このようなサポートをすることで他部署の職員とコミュニケーションをとることができたことは今後の働きにプラスになるはずである。現在、福祉機関におけるチャプレンの働きは医療機関のそれと比べると具体性に欠けるところはあると思うが、今後もシャロームの理念を基本としながら、現場のニーズに応えられるような働きを考えていきたい。

平成 29 年度事業報告	在宅福祉課	課長： 鷹部屋 宏平
--------------	-------	------------

部門職員数（平成 30 年 3 月 31 日 現在）

課長	1 名	主任	1 名	副主任	1 名	常勤	2 名	合計	5 名
						非常勤	12 名	総合計	17 名

## 1. 平成 29 年度「事業計画」の達成状況

### 1. 安定的な経営

前年度はスタッフの頑張りで、年間稼働率 80%を達成することができたが、今年度は下の実績表の通り、75.7%であった。総利用者数では前年度を約 500 人弱の減少があった。

この理由としては利用者の中重度化、定期的なショートステイの利用、体調を崩しての入院、福祉施設への入居等が多く見られた。これは市内の通所介護事業所のおかれている立場は同じなので、来年度に向けて更なる特徴作りとご利用者・ご家族・ケアマネージャーとの信頼関係を構築していかなくてはならない。

当センターの特徴でもある中重度者向けのサービスとしての入浴支援が大きなカギとなっていくと考えている。そこで来年度は入浴支援に向けたサービスの構築を検討していく。

今年度は前年度より稼働率、総利用者数は減ったが、ご利用者の重度化、複雑な家族環境等をスタッフが理解して、協力をしてくれたことに感謝したい。

### 2. ご利用者の尊厳を重視した接遇態度での対応

今年度も昨年度に引き続き、接遇専属の担当者を作り、毎月、定期的な勉強会を開催することができた。スタッフ一人、ひとりが意識的に接遇のことを考えながら働くことができた。

しかし、まだまだ勉強が必要なため来年度も同じような意識改革を継続していく。細かい点においてまだまだ、いたらない点が多く外部での研修や勉強会も視野に入れながら検討していきたいと考えている。

接遇はデイサービスにおいて送迎・入浴・排泄・食事の場面において重要な介護の一つであることを一人一人が再認識して、今後のシャローム南沢ケアにつなげていきたいと考えている。シャローム南沢クオリティーを引き続き上げていくためにも**接遇**は大切な柱である。

### 3. 地域社会のニーズに応える。

地域社会のニーズは中・重度化する利用者へのきめ細かい対応であると考え、その中でも入浴にポイントをおいた運営を構築していくためのシステムづくり、環境づくりを進めていきたい。

近隣のミニデイサービス、認知症カフェに参加して、デイサービス利用者だけでなく、近隣の地域の方々へのシャローム南沢の認知度を上げていきたいと考えている。

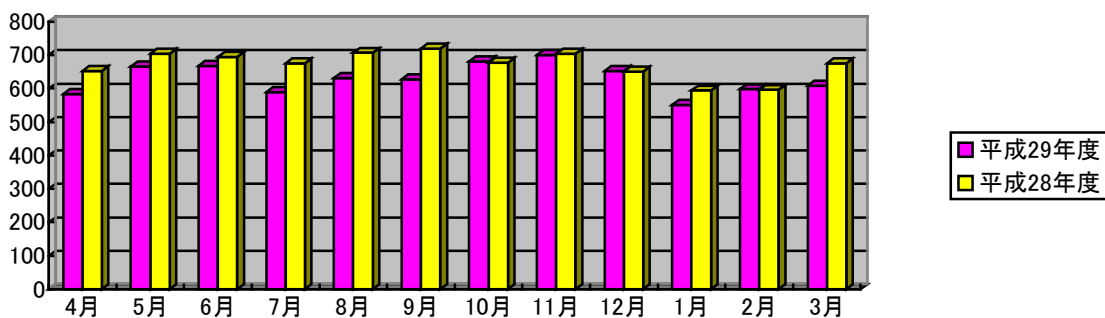
今年度も中部地区において「認知症カフェ」・「シャロームカフェ」を定期に開催することができた。利用者も増え、法人サービスにつながる方も増えてきた、今後はこの活動を中部地区以外にも拡げていきたい。何らかの形でのアプローチを検討していきたい。



## 2. 部門業務資料

### (a) 月別利用実績

29年度実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
延べ利用者数	584	666	668	590	632	627	681	701	653
活動日数	20	23	22	21	23	21	22	22	21
月間総定員	780	897	858	819	897	819	858	858	819
稼働率	74.9%	74.2%	77.9%	72.0%	70.5%	76.6%	79.4%	81.7%	79.7%
28年度実績	652	704	695	675	707	719	677	704	650
増減	-68	-38	-27	-85	-75	-92	+4	-3	+3
29年度実績	1月		2月		3月		合計		
延べ利用者数	551		598		608		7559人		
活動日数	19		20		22		256日		
月間総定員	741		780		858		9984人		
稼働率	74.4%		76.7%		70.9%		75.7%		
28年度実績	594		596		676		8049人		
増減	-43		+2		-68		-490人		



### (b) 介護度別利用者分布 (3月実績分)

	軽度		中重度		
	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
29年度	33	16	10	12	4
	49		26		
前年度	24	21	18	10	2
	45		30		

	要支援1	要支援2
29年度	3	4
前年度	4	3

平成 29 年度 事業報告	東久留米市 幸町デイサービスセンター	課長：木村 貴博
---------------	-----------------------	----------

部門職員数（平成 30 年 3 月 31 日 現在）				
課長 1 名 （相談員兼務）	主任 1 名	副主任 1 名	常勤 5 名 非常勤 9 名	総合計 14 名

## 1. 平成 29 年度「事業計画」の達成状況

### 1) 施設内外問わず研修や資格取得など各自の積極的なスキルアップを目指す。

- ・地域包括ケアシステムの構築に向け、私達デイサービスにできることを主に考え、市内で実施されている健康体操・認知症カフェ等の視察など、常勤職員を中心に積極的に行った。地域交流と共にデイサービスのプログラムにも取り入れられる知識を多く身に付けることができた。
- ・平成 27 年より看護師の勤務形態が変わり看護師不在時間帯が生じるようになったが、それ以降他の専門職も医療系の研修に出来るだけ多く参加している。本年度は外部講師を招き、応急処置心肺蘇生等の勉強会を開催、緊急時に備え滞りのない対応ができるように各自真剣に向き合うことができた。
- ・各自外部研修で得てきた情報を皆で共有する為に課内で伝達講習を行っている。「認知症利用者への対応」・「接遇」・「レクリエーション」・「医療ニーズを見逃さない」と幅広い分野で年間を通し多くの学びを得ることが出来た。個人としても 2 名が「社会福祉主事」「保育士」の資格取得を果たし、個人のスキルアップと共に課としても今後の業務に好影響が期待できる結果となる。

### 2) 室内・庭等、最良の雰囲気作りと、心のこもった接遇を実践

- ・環境整備も接遇の一環と捉え、フロア内を含め庭や玄関等の美化に努めた。特にボランティア様も増え活動が充実したことにより、施設周りの植木、庭の畑など整備がなされ、野菜収穫や庭の散策など結果的にプログラムの充実にもつながり多くの方々に喜んで頂けた。
- ・法人全体でも重点的に取り組む接遇だが、当施設でも毎時の課題として取り組んでいる。一年を通してご利用者からの苦情は 2 件。そのうちの 1 件は職員の言葉遣いと送迎車の運転マナー等のご指摘を受け、より一層接遇に対する取り組みと、職員同士も馴れ合いが無く常にマナーを意識して業務に励むよう次年度以降も当たり前の心構えとして捉えていく。
- ・定例となった幸町ハッピーフェスタ（バザー）、実験的に始まり現在も理想形を模索しながら行っているシャロームカフェ（認知症カフェ）と地域に根差した活動を継続し今年度もスケールアップしている。金銭的な利益とは別に多くの地域住民がこの地に集い、当法人・施設を周知して頂いている事を日々体感することができた。

### 3) 一人一人のニーズに合わせたプログラムを今以上に提供すると共に記録媒体等の効率化を進める

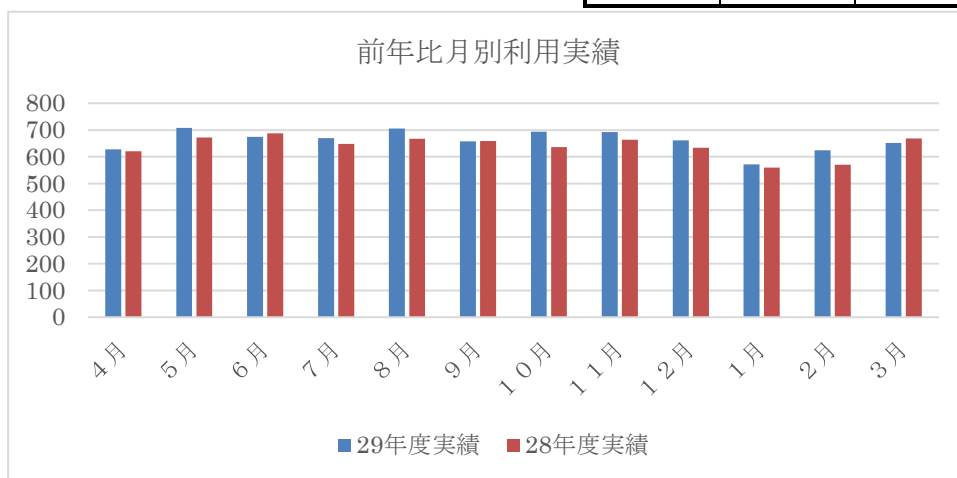
- ・職員は当デイサービスの特徴を理解し真剣に仕事に取り組む姿が一人一人に見受けられる。慢性的な職員不足の中、各自が知恵を出し合い毎月のイベントの立案や各プログラムを 100 種類以上提供していることは、稼働率やご利用者の満足度に結果として表れていると実感できた。
- ・効率的な業務の見直しを計る為、シャローム南沢と共に記録媒体の電子化に向け計画してきたが協力他社に具体的な提案を示せず、十分な議論も疎かにしてしまった為に課題が前進しなかった。人員不足も解消できない現状を踏まえて反省し次年度も IT 化に向けて取り組みを継続する。

## 2. 部門業務資料

### 1) 月別利用実績

29年度実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
延べ利用者数	628	708	674	669	706	657	694	692	661
活動日数	20	23	22	21	23	21	22	22	21
月間総定員	680	782	748	714	782	714	748	748	714
稼働率 (%)	92.4%	90.5%	90.1%	93.7%	90.3%	92.0%	92.8%	88.8%	92.6%
28年度実績	620	672	687	648	667	659	636	664	634
増減	8	36	-13	21	39	-2	58	28	27

1月	2月	3月	合計
572	624	652	7937
19	20	22	256
680	680	748	8704
88.5%	91.8%	87.2%	91.2%
560	570	668	7685
12	54	-16	528



### 2) 介護度別 登録利用者分布 3月分

	自立	予 防 介 護		介 護 給 付				
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
29年度	0	11	11	40	11	4	0	0
		23		51		4		
28年度	0	12	11	43	11	2	0	0
		23		54		2		

平成29年度事業報告	訪問介護課 ヘルパー	報告責任者： 平尾 明美
------------	------------	--------------

部門職員数（平成30年3月31日 現在）

課長	1名	主任	0名	副主任	0名	常勤	3名	合計	3名
						非常勤	16名	総合計	19名

## 1. 平成29年度「事業計画」の達成状況

### 1, サービスの質の向上

- 1) ヘルパー会議にて、制度改正や総合事業への移行等について研修や勉強会を行った。
- 2) アセスメントや計画の見直しを行ない、適正なケアとなるようにヘルパーの調整を行った。
- 3) 他法人の研修等の情報提供を行ないヘルパーの研修の機会となった。

### 2, 総合事業の取り組み

総合事業の理解に努め移行についてはスムーズに対応ができた。しかし支え合い訪問介護の人材の育成や、支援強化型訪問介護を理解し支え合い等に繋ぐことができる支援体制をつくることは継続して取り組んでいく。

### 3, 他職種とのチームケアの強化

- 1) 他事業所への情報提供は迅速にすることに努めた。
- 2) 法人内の在宅委員会において、地域を取り巻く状況やニーズ等の情報交換により連携の強化ができた。

### 4, 人材の確保

- 1) ヘルパーの新規採用については依然として難しい状況となっている。
- 2) 課内のサービス提供責任者の連携により働きやすい環境づくりに取り組んだ。今後もサービス提供責任者の業務の見直しを進めていく。

## 2. 部門業務資料

### 1, 派遣実績

実績（総派遣時間数）比較

年度	総派遣時間数	前年度差（時間）
23年度	18,563	+1,604
24年度	15,674	-2,889
25年度	15,356	-318
26年度	13,864	-1,492
27年度	14,062	+198
28年度	13,020	-1,042
29年度	12,046	-974

※ 新規利用者の減少や、新規でヘルパーの調整ができて初回訪問までに亡くなるケースや短期間での利用終了等が多くみられ総派遣時間の増加に至らなかった。

## 派遣実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
介護保険	身体介護	H27	323	331	336	296	309	330	341	267	302	255	242	274	3606
		H28	310	234	233	231	238	253	238	229	244	210	193	210	2823
		<b>H29</b>	<b>266</b>	<b>234</b>	<b>214</b>	<b>204</b>	<b>260</b>	<b>289</b>	<b>322</b>	<b>307</b>	<b>308</b>	<b>291</b>	<b>266</b>	<b>287</b>	<b>3248</b>
	生活援助	H27	468	491	571	563	541	582	618	606	567	544	597	626	6774
		H28	636	609	577	543	554	540	546	545	524	455	433	455	6420
		<b>H29</b>	<b>430</b>	<b>463</b>	<b>437</b>	<b>413</b>	<b>499</b>	<b>484</b>	<b>481</b>	<b>434</b>	<b>466</b>	<b>408</b>	<b>417</b>	<b>431</b>	<b>5363</b>
予防介護 (総合事業)	H27	288	267	278	301	275	284	292	271	309	290	298	322	3475	
	H28	277	381	357	273	288	303	304	295	288	272	257	272	3567	
	<b>H29</b>	<b>255</b>	<b>332</b>	<b>312</b>	<b>270</b>	<b>296</b>	<b>262</b>	<b>313</b>	<b>330</b>	<b>282</b>	<b>254</b>	<b>257</b>	<b>271</b>	<b>3434</b>	
自費	H27	15	11	17	22	25	13	14	10	22	25	14	19	207	
	H28	31	14	25	21	17	20	13	15	14	15	10	15	210	
	<b>H29</b>	<b>7</b>	<b>31</b>	<b>24</b>	<b>17</b>	<b>33</b>	<b>20</b>	<b>22</b>	<b>18</b>	<b>25</b>	<b>24</b>	<b>17</b>	<b>25</b>	<b>263</b>	
合計	H27	1093	1099	1202	1181	1149	1209	1265	1152	1198	1114	1150	1241	14062	
	H28	1253	1137	1128	1067	1096	1117	1100	1083	1070	951	893	951	13020	
	<b>H29</b>	<b>958</b>	<b>1060</b>	<b>987</b>	<b>904</b>	<b>1088</b>	<b>1055</b>	<b>1138</b>	<b>1089</b>	<b>1081</b>	<b>977</b>	<b>957</b>	<b>1014</b>	<b>12308</b>	

※毎日型の身体介護の派遣等が増え身体介護の派遣時間数が増加した。生活援助については利用者の急なご様子の変化により身体介護の派遣に変更や、終了になったケースが目立った。

### ヘルパー会議・学習会等

H29年

11月28日 感染症対応について

H30年

1月17日 サービス提供責任者初任者研修 (2名参加)

3月14日 ストレスをためないようなコミュニケーションスキルとは (ヘルパー部会)

3月30日 介護保険改正について

:平成 29 年度事業報告		居宅介護支援課		課 長: 鷹部屋宏平(宮下留美)	
部門職員数(平成 30 年 3 月 31 日 現在)					
課長 1 名 (兼 務)	副主任 1 名 (主任介護支援専門員)	常勤 3 名 (主任介護支援専門員 1 名 介護支援専門員 2 名)	事務 1 名	合計 5 名	

## 平成 29 年度「事業計画」の達成状況

東久留米市の日常生活支援総合事業が開始となり、地域包括支援センターと協力しながら利用者への説明、手探りでのプラン作成や帳票作成を行った。自分たち自身も制度理解に努めつつの作業でありそれなりに労力を要した。鳴り物入りで始まったはずの支援強化型事業や支えあい事業は当事業所では 1 件も予防プランに入れることなく 1 年が終わっている。サービス事業者側の体制が整わないままの見切り発車に振り回された感が否めない。

ケアマネージャー3 人体制でスタートしたが、7 月に人事異動があった。ベテラン管理者のケースをすべて新人に引き継ぐことができず数ケースを放出、新規受け入れができない状況が続いた。1 月から 1 名入職して 4 人体制となり積極的に新規の受け入れをはじめてはいるが、給付管理数は前年度に比べて低くなっている。新職員が認定調査員研修を終えるまで調査の出来る職員が 2 人しかいない時期もあったが、調査件数は例年並みにこなしている。

### 1, 専門性の向上

研修計画を立て積極的に研修(自治体、包括、主任ケアマネ連絡会、ケアマネ連絡会、職能団体等が主催の研修、法人内研修)に参加し、相談援助の専門的知識や技術の習得に努めた。週 1 回の課内ミーティングを通じて情報共有を行うとともに、各人が自分の抱える課題を把握し、お互いにアドバイスしあえる環境作りを行った。

### 2, 多職種との連携・協働

平成 30 年度の介護保険改正では医療との連携が重視されたが、実際に病院と連携をとることが多くなっている。入退院時だけでなく、平素から主治医や訪問看護、リハビリなどの医療職と各サービスがうまく連携できるようケアチームの要としての役割が果たせるよう努力した。保険者、地域包括支援センター、権利擁護関係との連携はもちろん、地域の社会資源に目を向けて協働の方法を模索した。

### 3, 運営基準の順守

常に法令遵守、記録の重要性を意識し業務にあたった。情報収集に努め、記録の仕方など改善点を話し合い実行するようにした。第三者によるチェック体制も項目を増やし、漏れがないように努力している。

### 4, 特定事業所加算の取得

ケアマネ 4 人体制になり 2 月から特定事業所加算をⅢからⅡに戻すことができた。特定事業所加算Ⅱの取得の条件は、主任ケアマネ 1 名・常勤ケアマネ 3 名の配置、週 1 回の課内会議、24 時間の連絡体制の確保、計画的な研修の実施、包括からの困難事例の受入れ、運営基準減算・特定事業所集中減算なし、ケアマネ 1 人当たりの担当件数が 40 件未満、介護支援専門員実務研修の実習生の受け入れである。条件を満たすため上記の 1~3 も課題に取り組みつつ、昨年度は 3 名の実習生を受け入れた。

### 5, 地域での役割

東久留米市や西東京市のケアマネ連絡会に参加し、地域のケアマネージャーとの情報交換、勉強会を行った。中部包括支援センター主催のケアマネ地区懇談会では中部地区の社会資源を発掘する取り組みを行った。

主任介護支援専門員が 2 名在籍する。主任介護支援専門員はケアマネ業務だけでなく地域への貢献が求められている。主任介護支援専門員連絡会に所属し、包括支援センターの主任介護支援専門員と協力してケアマネ向けの研修会や勉強会の企画運営を行った。

## ＜介護プラン＞

### [新規利用者]

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
27年度	5	5	5	5	2	3	4	5	4	4	3	2	47名
28年度	0	0	7	2	3	2	4	2	0	5	0	2	27名
29年度	2	3	2	1	0	3	3	5	2	7	9	4	41名

### [給付管理数]

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
27年度	103	103	102	110	107	101	106	101	102	104	105	113	1,257件
28年度	111	106	113	113	108	109	111	110	100	112	99	78	1,270件
29年度	82	79	78	75	72	76	75	78	79	81	88	87	941件

### 終了状況

年度	介護予防へ	死亡	入院・入所	その他サービス 終了転居等	合計
27年度	2	15	21	4	42名
28年度	1	13	20	24	58名
29年度	1	8	12	5	26名

## ＜予防プラン＞

### [新規利用者]

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
27年度	0	1	0	1	0	0	0	1	1	0	0	4	8名
28年度	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	3名
29年度	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	4名

### [受託数]

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
27年度	32	32	33	30	29	30	30	29	29	27	26	29	356名
28年度	30	30	29	29	30	32	31	30	29	26	24	19	339名
29年度	19	20	21	17	16	16	17	16	16	16	17	17	208名

### 終了状況

年度	要介護へ	死亡	入院・入所	その他サービス 終了転居等	合計
27年度	5		2		7名
28年度	3			8	11名
29年度	3				3名

## ＜会議・研修等＞

### \* 担当者会議

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
27年度	23	19	20	39	17	25	20	18	29	21	19	15	265回
28年度	20	28	18	28	14	26	18	17	24	27	23	10	253回
29年度	16	27	16	16	8	22	12	15	9	22	17	18	198回

### \* 認定調査(月別)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
27年度	5	3	11	7	5	1	6	7	3	4	2	5	59名

28年度	8	4	3	7	8	3	5	6	8	2	1	2	57名
29年度	9	4	0	4	5	4	10	5	7	4	2	3	57名

**\* 研修**

月/日	研 修	参加者
4/29	「生活保護制度の理解と福祉事務所との連携」	鎌谷、宮下
5/22	「訪問薬剤師の役割・リハビリを考える」	楠美
5/29	「リハビリ専門職ができること」	宮下
7/23	「終末期ケアについて～利用者の意思決定支援と地域ケア」	鎌谷、宮下
8/1	西東京市新任ケアマネージャー研修	片寄
8/16	「介護サービス事業管理者高齢者権利擁護研修(居宅系)」	宮下
9/1	第1回 成年後見制度・ケアマネ勉強会 「成年後見と地域福祉権利擁護事業」	楠美、片寄
9/12	オープン事例検討会	宮下、楠美
9/18	第1回「ケアマネージャーに必要なアセスメントの視線」	宮下
9/26	「リ・アセスメント支援シートを活用したケアプラン作成のポイント」	宮下、楠美、片寄
9/29	第2回 成年後見制度・ケアマネ勉強会 「ワールド・カフェ方式で学ぶ成年後見 事例」	宮下、楠美、片寄
10/10	第1回在宅医療・介護連携“多職種研修会”「認知症疾患医療センター～事例検討会～」	宮下、楠美
10/12	西東京市要介護認定調査従事者現任研修	宮下、楠美
10/28	「介護支援専門員のストレスマネジメント」	宮下
10/29	「ケアマネージャーに必要な面接技術」	宮下
11/14	「相談援助職の記録の書き方」	宮下
12/16	「法改正・報酬改定の同行から見てくるケアマネージャーの役割」	楠美
1/24	第2回東久留米市在宅療養多職種研修会 「認知症初期集中支援チームその活動について」	全員
1/29	東久留米市 介護認定調査員現認研修	宮下、楠美、片寄
2/8	北多摩北部医療圏脳卒中ネットワーク委員会医療介護従事者向け研修「回復期～維持期(生活期)の連携について」	楠美
2/22	カナミック研修	片寄
3/9	オープン事例検討会	全員
3/16	「認知症ケアにおけるケアマネジメントのノウハウと成年後見制度の上手な使い方」	片寄
3/24	「2018年診療報酬・介護報酬ダブル改訂でいったい何が変わるのか？」 「ケアプラン策定における人工知能(AI)導入の行方」	宮下
	ピア事例検討会(5/16 6/19 8/14 10/16 12/11 2/14)	宮下
	ピア事例検討会(4/11 5/16 6/13 8/8 8/29 10/10 11/29)	楠美

**\* 会議**

月/日	会 議	参加者
	主任介護支援専門員連絡会(4/6 5/17 6/8 7/7 8/3 9/14 10/5 11/2 12/7 1/11 2/1 3/1 )	鎌谷(～7月) 宮下 沖山(1月～)
3/13	西東京市ケアマネージャー分科会	沖山
7/20 10/19 3/27	東久留米市介護支援専門員連絡会 全体会	全員
6/23、10/27、3/2	ケアマネ地区懇談会(中部包括)	全員

**<東京都介護支援専門員実習生受入れ>**

6月	7月	2月
1名	1名	1名



平成 29 年度事業報告	シャローム本天沼	課長： 望月 太敦
--------------	----------	-----------

部門職員数（平成 30 年 3 月 31 日 現在）

課長 1 名 (兼務)	主任 0 名	副主任 0 名	常勤 4 名	非常勤 6 名	合計 11 名
----------------	--------	---------	--------	---------	---------

## 1. 平成 29 年度「事業計画」の達成状況

< 実施計画 >

### 1. 本人と共に行う自立支援に向けたサービスの質の向上に取り組む

開設から 10 年を迎えた節目の年度であり、開設当時の入居者の ADL と比べると重度化してきているが、今年度も生活の主体者は入居者であることを心がけ、一人ひとりの自己決定を尊重することを第一に支援を行った。日常の買い物もなるべくホーム近くの商店まで歩いて買い物に行くことを継続するなど生活行為を中心に身体を動かす機会を設け、また地域密着型の事業所としてホームに近い地域の方との関わりを大切にできるよう支援した。

入居者の健康面では通年を通して協力病院である東京衛生病院及び東京衛生病院訪問看護ステーションと東京衛生病院附属歯科クリニック、往診医と連携をとり健康管理に努めた。今年度は 8 月に 1 名の方が看取りで退去されたため空床期間があったが、体調不良による入院はない一年となった。日頃から医療機関との連携が上手くとれたことにより、入居者の体調不良など早期に発見し、相談や対応ができた成果といえる。感染症や食中毒については通年を通して予防に努め、感染症等の発症はなく一年を終えることができた。

### 2. 地域とのつながりを通して地域福祉の充実に向けた取り組みを行う

毎年開催している 8 月の夏祭りでは 62 名の地域からの来場者があった。アパート住民の方だけでなく、近隣の小学校や児童館の交流会等で以前にシャローム本天沼へ来たことがある方も多く来場された。また、餅つきについては、昨年同様 12 月に杉並事業のわかばと合同での開催として実施した。

本天沼児童館との交流会は年 2 回実施した。今年度もこどもと入居者の共同作品を製作し、集会所祭りに出展することができている。児童館との交流会は毎年 2 回開催することが定着し、毎年児童館に通う子どもたちと入居者との関係の構築につながってきている。次年度は館長の退職があるため、引き続き交流会が継続していけるよう関係性を構築していく必要がある。

オレンジカフェは定期開催しているが、参加者数が少ないことが続いている。2 ヶ月に 1 回ホームで活動しているボランティアの方々の参加やホーム近くの地域住民の参加があるが、開催方法として課題が残っている。区内には介護者が集う場が増えているため、本天沼地区の方に必要とされる開催方法について、地区の地域包括支援センターと連携をとり、ホーム独自の方法に向けて見直していく必要がある。

### 3. 人材育成とスタッフの働きやすい環境整備を行う

グループホームに求められる人材育成に向け、スタッフ共通のチェックシートを基に、支援者としての姿勢等を互いに確認した。事業所内で開催する必要がある研修については、管理者だけでなく常勤職員が講師となることができた。外部研修は人員体制のこともあり参加できる機会が限られてしまっているが、受講希望があった際は勤務調整をして参加できるようにした。

日頃の標準予防策への意識を高めたことが、発症者を出さないことにつながっている。

環境整備に向けては、物入れの物品整備を進め、予備室内のスペースを使いやすいように整理することができた。

### 4. 予算を基にした計画的な事業を実施する

年間の稼働率は目標の 97% を超え 99.3% となった。看取り後の空床期間以外は満床の一年であった。これは、医療機関と連携をとり入居者の日頃の健康管理に努めたことが成果といえる。退去後に次の入居者を迎え入れるまで 24 日間経過したが、杉並区内のグループホーム待機者が少なくなっており空床のまま

運営しているグループホームもある状況からすれば早期入居につながったといえる。一方で待機者が減ってきているため、日頃から担当の地域包括支援センターや福祉事務所と連携をとり、退去後のスムーズな入居ができるような支援体制の構築が必要である。尚、行事費用や研修費用は予算内で適切に管理した。

## 部門業務資料

### 1. 入居状況（平成30年3月末）

- 要介護度： 要介護1：3名 要介護2：2名 要介護3：1名 要介護4：3名 要介護5：0名  
平均要介護度：2.4
- 利用者： 9名
- 退居者： 1名（平成29年8月）
- 入居者： 1名（平成29年8月）
- 性別： 男性 2名 女性 7名
- 年齢： 60代：1名 70代：1名 80代：6名 90代：1名（平均年齢 83.6歳）

### 2. 稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
対象人数	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108
稼働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
総利用床数	270	279	270	279	279	270	279	270	279	279	252	279	3285
実利用床数	270	279	270	279	255	270	279	270	279	279	252	279	3261
空き床数	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	24
稼働率（%）	100	100	100	100	91.4	100	100	100	100	100	100	100	

### 3. 活動・行事・外出等

月	内 容
4月	お花見外出
5月	菖蒲湯、母の日、自治会草刈
6月	本天沼児童館交流会の実施、父の日、買い物外出、沓掛小お仕事見本市
7月	杉並重心わかば祭りに参加
8月	シャローム本天沼夏祭りの実施
9月	敬老の日
10月	自治会草刈、本天沼集会所まつりへ参加、
11月	シャローム祭参加、開設10周年行事、ほんあま縁日へ参加
12月	杉並重心わかばと合同餅つき、クリスマス会、本天沼児童館交流会
1月	初詣
2月	節分
3月	ひな祭り

※オレンジカフェ（毎月第一水曜日 14：00～16：00）

※その他、誕生会、日常の外出の他、ボランティアによるオカリナ演奏、南京玉すだれ、体操を実施した。  
運営推進会議 5月、7月、9月、11月、1月、3月の6回開催

### 4. 実習等の受け入れ状況

- 東京都立多摩職業能力開発センター八王子校の見学実習を受け入れる。（1回 延10名）
- 職場体験（沓掛小生徒2名受け入れる。）

### 5. 第三者評価結果について

緩和規定により未実施。

平成29年度事業報告	グループホーム白山	課長 : 石本 さやか
------------	-----------	-------------

部門職員数 (平成29年度3月31日 現在)

課長 1名	主任 0名	副主任 0名	常勤 2名 非常勤 7名	合計 10名
-------	-------	--------	-----------------	--------

## 1. 平成29年度「事業計画」の達成状況

### 1) サービスの質の向上

利用者の生活の充実については、生活の楽しみを提供できるよう担当係を決め大きな行事とは別に、生活の中の楽しみとなるようレクリエーションや食レク等の提供を定期的に行った。利用者からの反響あり今後も継続的に続けていく

法人内の連携については、緊急時の対応や特養への情報提供等これまで以上に連絡を密にした。今後も利用者が安心して利用できるサービスへと引き続き取り組んでいく

### 2) モニタリングと記録の連動

利用者の個々の記録は介護計画と連動するようミーティング等で周知し取り組んだ。必要な情報を分かりやすく記録することで、記録からモニタリングへの連動もスムーズに行えるように努力したが まだ改善の余地があり継続課題とした。

### 3) 環境の整備

経年劣化の部分については法人本部と連携を取り迅速に修繕し安心して生活できる場の提供をしている。

### 4) ご家族・地域との連携

敬老会や納涼祭には地域のボランティアの力も借り、利用者と共に楽しむ時間となった。今後も定期的なボランティアの活用を検討していく。

家族会では年度の途中で会長の交代があったが、それぞれのご家族と連絡を密にしグループホーム白山への要望・運営へのご理解をいただいた。

## 2. 部門業務資料

### 1) 入居状況

- ・退所 2名・入所 2名
- ・男性 3名 女性 6名
- ・要介護度 要介護1 2名、 要介護2 4名、 要介護3 2名、 要介護4 1名  
要介護5 0名
- 平均要介護度：2.2
- ・年齢70歳～94歳 平均年齢 85.8歳

### 2) 定期的な活動

- 第4金曜日 ミュージックセラピー
- 2か月に1度 自治会の環境美化の日
- 2か月に1度 運営推進会議
- 家族会 1年に1回 総会
- 近隣市地域密着型サービス連絡会 3か月に1度
  - ・月2回 滝山クリニックの医師による往診。 訪問看護 毎週木曜日
  - ・健康診断 年に1度 血液検査 半年に1度

### 3. 活動・行事・外出等

4月	春の外出(羽村チューリップ畑 会食)
5月	菖蒲湯 母の日 工作会
6月	父の日
7月	七夕
8月	工作会 納涼祭 避難訓練
9月	敬老会 家族会総会
10月	外出プログラム 避難訓練(地域防災訓練参加)
11月	シャローム祭
12月	クリスマス会 納会 工作会
1月	お正月 初詣 高齢者作品展
2月	節分
3月	ひなまつり 工作会

### 4. 稼働実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
対象人数	8	8	8	8	9	9	9	9	9	9	8	9	103
稼働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
総利用床数	270	279	270	279	279	270	279	270	279	279	252	279	3,285
実利用床数	220	241	201	248	257	263	279	270	278	270	224	256	3,007
空き床数	50	38	69	31	22	7	0	0	1	9	28	23	278
稼働率	81.5%	86.4%	74.4%	88.9%	92.1%	97.4%	100%	100%	99.6%	96.8%	88.9%	91.8%	91.5%

※退居者 平成29年 4月 1名      平成30年 3月 1名  
 入居者 平成29年 8月 1名      平成30年 3月 1名

平成29年度 事業報告	東久留米市中部地域包括支援センター	課長： 一木 誠
-------------	-------------------	----------

部門職員数（平成30年3月31日 現在）

課長 1名 (相談員兼務)	相談員 4名	常勤 7名	合計 9名
	介護支援専門員 2名	非常勤 2名	
	生活支援コーディネーター 1名		
	事務員 1名		

## 1. 平成29年度「事業計画」の達成状況

東久留米市では、4月から「介護予防・日常生活支援総合事業」が始まった。新たな制度の中で、包括が携わる業務が増えた。主だったものとして、①介護保険利用希望時に、「基本チェックリスト」を用い、要介護認定を受けることなく、総合事業の一部をスムーズに利用できるシステム、②リハビリ専門職が関わる支援強化型サービスが始まり、運動機能の向上や介護予防につながる取り組みがスタート、③地域で介護予防の様々な資源が活用できるように、一般介護予防事業や、地域との連携の強化を行う。

実際は、介護保険の利用を希望する方との相談の中、「基本チェックリスト」での申請、支援強化型サービスの利用を希望される方が少なかった。制度を十分に理解できるような説明ができなかった他、利用される方の意識、サービス事業所の総合事業の理解が不十分だったように感じる。ただし地域との介護予防等の取り組みについては、多くの人や機関とのつながりが増え、各地で活動が始まっている。今後も総合事業と地域の連携が進み、自立した生活を送れるように支援を行っていく。

### (1) 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業

- ケアマネ地区懇談会では、地域の主任ケアマネの協力を地域資源の活用についての報告や、事例検討会を行い、ケアマネのスキル向上を目指した。
- 市役所で市内の居宅介護支援事業所を対象に、ケアプランチェックを毎月実施した。包括からは主任介護支援専門員の出席と、対象のプランに対するコメントを行なった。
- 医療ニーズの高いケースが増えている。ケアマネや病院の相談室、白十字訪問看護ステーションの在宅療養窓口と連携を取って、在宅生活の支援を行った。また東久留米市の医療と介護の連携会議に出席をした。
- 地域ケア個別会議を2回実施。精神疾患と思われる方の支援方法の検討、介護保険を利用しているが、地域資源を活用し、自立した生活を送ることができるのかを、担当ケアマネ、地域の方や福祉関係者と会議を行ない、地域で支えていく必要性を共有した。

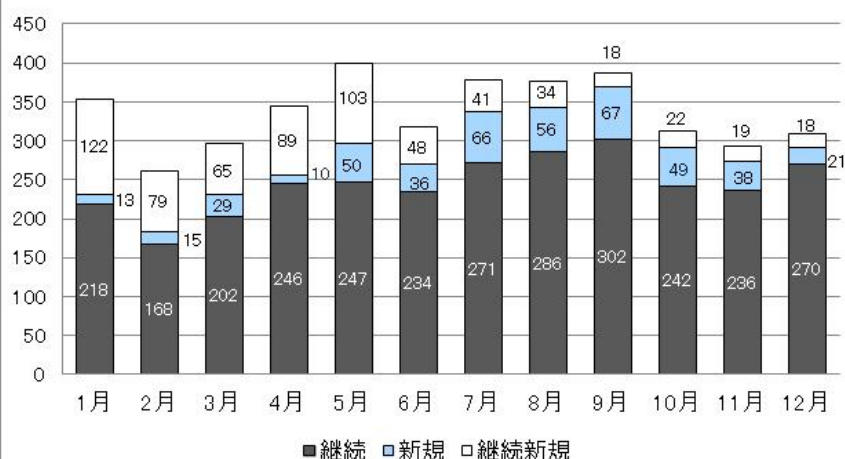
ケアマネ地区懇談会	4回
ケアマネ連絡会	3回
主任ケアマネ連絡会	11回
ケアプランチェック	9回
ケアマネ連オープン事例検討会	1回
虐待事例検討会	3回
人権部会・人権部会勉強会	3回

### (2) 総合相談業務

- 初期相談窓口として、相談者に対してサービスの提案だけでなく、生活全般のニーズ等をしっかりとアセスメントするように心掛けた。
- 家族の問題（金銭、精神疾患等）により、高齢者の生活に悪影響を及ぼすケースが増えている。解決に時間を要するようになってきた。家族の支援で他機関との連携が必要となっている。中心的な役割を果たすこともあり、職員のスキルアップが不可欠となっている。

## 月別延べ相談件数

(H29年度)



相談方法	延べ件数
電話	2,263
来所	226
訪問	1,267
文書	23
その他	251
<b>合計</b>	<b>4,030</b>

### (3) 地域ネットワーク活動

- 生活支援コーディネーターが地域に出向き、高齢者の集いの場所を構築した。地域活動では、参加者のいろいろな意見を取りまとめたり、人間関係の調整をしたりすることが多く、会がスムーズに運営されるように配慮しながら関わりを続けることができた。リハビリ専門職もグループに訪問し、アドバイスを受けることができた。
- 今年度の第二層協議体会議は、南町地区を中心に、認知症をテーマに会議を行なった。閉じこもりを予防できるような取り組みとして、脳の健康教室（一般介護予防事業）→脳トレの自主グループ立ち上げ、体操などのグループの立ち上げを目指し、脳トレのグループ（+体操）が立ち上がっている。ただし市や地域の資源をどのように高齢者に伝えていくのかも大きな課題となっている。

自主グループ	体操（14ヶ所）、脳トレ（5カ所）、料理（4カ所）、サソ・メディア（6カ所）
自治会	6カ所
シニアクラブ	6カ所
ひばりが丘連絡会	5回
認知症カフェ	ふらっとカフェ、ゆいまあるカフェ、シャロームカフェ（共催）
介護予防事業	しゃしゃり介護予防体操、体づくり体操呼びかけ隊
支え合い	元気高齢者
その他	・郵便局、ふれあいの里、ヨーカ堂、ルネサンス、ケア東久留米 ・商店等に「みまもり協力」依頼・健康相談（前沢集会所）

#### 3-1) みまもりネットワーク

- みまもりネットワーク連絡会は、みまもり協力員と会議を行ない、東久留米市の制度や現状について説明、またみまもりの現状について意見交換を行う。
- みまもりネットワーク事業のみまもり対象者が、徐々に増えている。一人暮らし高齢者が増えていく中で、サービスの活用について啓発活動を進めている。

みまもり対象者	(包括担当の方を含む。H30/3/31 時点)	10名
みまもり延べ回数	(包括担当の方を含む。)	217回
対象者以外の気になる方のみまもり延べ回数	(上記再掲4回)	10回
協力員連絡会開催		1回
みまもり配食事業者連絡会		1回
地域の方からの通報		20回
関係機関からの通報		9回

#### (4) 権利擁護事業

- 養護者の精神疾患、金銭問題により、虐待や支援困難な状況になってしまうケースが増えている。包括だけでは対応できないため、他機関との協力が必要となり、解決まで時間がかかるようになった。傾向としては、施設入所など家族との分離を図っていくケースが増えている。地域権利擁護・成年後見対応も必要で、社会福祉協議会と協力しながら、支援を行ってきた。
- 今年度は、東京都の「高齢者権利擁護体制整備事業」を受け、虐待対応のマニュアル、書式の見直しを行った。東京都権利擁護センターの職員と各包括の社会福祉士で月1回会議を行ない、新しい物を作り上げた。介護保険事業者にも説明の場を開いた。

【延べ相談件数/人数】(初回人数)

権利擁護	虐待	困難	地域権利	成年後見
24年度	469件/25人(14)	371件/26人(14)	11件	107件
25年度	473件/34人(20)	546件/24人(15)	12件	52件
26年度	531件/29人(12)	159件/4人(1)	5件	10件
27年度	599件/27人(10)	104件/5人(0)	3件	10件
28年度	129件/58人(2)	30件/10人(0)	2件	12件
29年度	210件/75人(7)	62件/15人(0)	(成年後見を含む)	49件

#### (5) 一般介護予防事業

- 介護予防に役立つ講座として、シャキシャキ介護予防教室(運動・栄養・口腔ケア 2か月間)、脳の健康教室(ドリルを活用 6か月間)、若さを保つ 元気食教室(2日間)、介護予防講演会が行われ、生活支援コーディネーターや介護予防担当者が出席し、参加者の状況把握をした。
- リハビリ専門職(東久留米市リハビリテーション協議会)による介護予防教室として、「体力測定会」、「体づくり体操呼びかけ隊」を行い、地域の体操サークル立ち上げの人材発掘に努めた。
- 元気高齢者活躍推進事業を行っている、ゆいまある南沢デイサービスに行き、参加者との交流を持った。
- 上記の一般介護予防事業等に、生活支援コーディネーターが出席し、参加者との交流を持ち、地域での様々な介護予防の取り組みを協力してもらえ、人材発掘を行った。新しいグループも立ち上がっている。

#### (6) 認知症ケアの推進

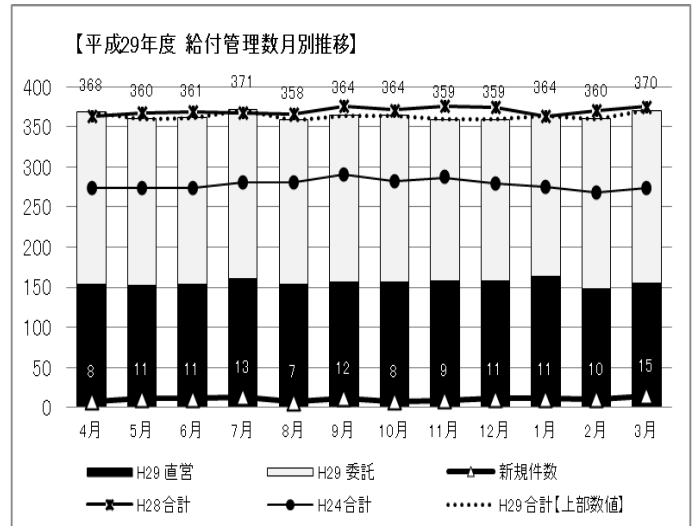
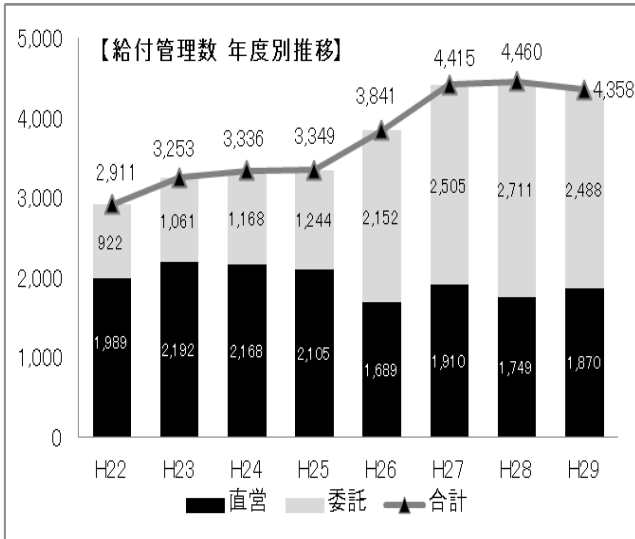
- 認知症地域支援推進員が、①支援の受け入れ困難な認知症高齢者への対応(支援制度の活用、医療機関との連携等)、②認知症高齢者や家族の相談窓口や受け入れ場所との連携、③地域住民の認知症の理解を深める取り組みを行った。
- 認知症カフェが今年度より、市役所から補助金が出ることになり、シャロームカフェ、ゆいまあるカフェの2か所が補助金を活用し運営されている。2か所のカフェと連携し、カフェを利用される認知症高齢者、その家族の状況の把握に努めた。
- 認知症家族会を2か月ごとに開催し、家族の安らぎの場となっている。男性介護者の会の構築を目指したが、参加者が集まらず、継続できなかった。
- 認知症サポーター養成講座は、中部包括主催を1回、その他企業、福祉施設職員向けに講座を開催した。認知症サポーター養成講座の依頼が増えてきている。
- 認知症サポーターフォローアップ講座を2回開催した。今年度から1回目(地域のボランティア活動について)は市全体で、2回目(認知症高齢者への対応方法)は各包括で講座を開催した。
- 初期集中支援チームの運用について検討され、事業スタートに向けて準備をした。

認知症家族会の活動回数	6回
参加者延べ人数	29名
新規参加者数	3名
家族会に関する相談延べ件数	1件
認知症サポーター養成講座開催回数	4回
認知症サポーター養成講座 他包括開催のお手伝い	1回
認知症サポーターフォローアップ講座	2回

## (7) 指定介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント事業

- 総合事業が始まり、介護予防訪問介護・通所介護は東久留米市独自のサービスになった。総合事業型（従来型）の他、支援強化型、支え合いサービスがスタートした。  
※支援強化型：リハビリ専門職が日常生活動作や介護予防に関する助言を行う。3か月集中サービス  
※支え合い：事業所で研修を受けた地域住民が関わることで、地域の支え合いを推進する。
- 基本チェックリストでの申請や、支援強化型、支え合いサービスの利用者は少ない状況。特に支え合いサービスについては、受け入れ事業所が無く、その影響もあり、チェックリストでの申請が少ない。

◇ 平成29年度：前年比 ▲102件（直営+121件、委託▲223件/56.6万円増収）、新規契約126件



## 2. 部門業務資料

### (1) 任意事業（東久留米市独自の委託事業）

生活支援事業	支援調査票作成	0件
	モニタリング	4件
	住宅改修理由書作成	1件
	福祉用具購入理由書作成	1件
	住改・福祉用具に関する相談	36回

### (2) 会議一覧

項目	会議名	回数
ケアマネ関係	地域ケアマネ懇談会開催	3
	ケアマネ連絡会	3
	主任ケアマネ連絡会	11
	ケアマネ連オープン事例検討会	1
	ケアプランチェック	9
	人権部会・人権部会勉強会	3
虐待関連	関係機関向け説明会（マニュアル改訂に向けて）	1
	高齢者虐待等事例検討会	4
	高齢者虐待体制整備事業連絡会	8
	虐待ヒヤリング	1
認知症関連	グループホーム等運営推進会議（すみれ、そよ風、スーパードイ他）	17
	キャラバンメイト連絡会	1
	サポーター養成講座開催	4
	サポーターフォローアップ講座開催	2
	認知症初期集中支援チーム検討委員会	4



	認知症地域支援推進員連絡会	12
	認知症家族会開催	6
在支・包括支援センター関連	包括・在支センター長会議	11
	権利擁護会議	5
	生活支援コーディネーター連絡会	10
	包括保健師看護師連絡会	1
	成年後見推進運営委員会	1
総合事業関連	介護予防地域づくり連絡会	1
	元気高齢者勉強会	1
	自主グループ代表者さんの集まりの会	1
	地域診断について	1
その他	第二層協議体開催	3
	ひばりが丘団地連絡会	5
	社協事業趣旨説明会	1
	地域ケア個別会議	2

### (3) 研修一覧

項目	内容	回数
地域包括支援センター職員向け	生活支援コーディネーター初任者研修	2
	包括支援センター初任者研修	2
	包括職員セミナー	1
虐待関係	擁護者による高齢者虐待研修	2
医療・介護関係	医療と介護の連携会議	1
	終末期ケアについて	1
	ちょっと役立つ薬の情報	1
	リハビリ専門職ができること	1
権利擁護	権利擁護研修	3
	後見制度	1
認知症	認知症初期集中支援チーム員研修	2
	認知症講演会	3
	多職種研修	3
	キャラバンメイト研修	2
	若年性認知症相談支援研修	2
ケアマネ	ケアマネ質の向上研修	1
	ケアマネに必要なアセスメント	1
	制度改正研修	1
介護予防	東京都介護予防推進会議	3
	介護予防事業説明会	4
	介護予防講演会・交流会・交換会等	5
他	高齢社会をともに生きる・ストレスマネジメント研修・面接技術研修・区市町村みまもり担当者連絡会	4

### (4) 実習生受け入れ

種別	学校名	実人数	延べ回数
看護師	国立看護大学	10	29
社会福祉士	日本福祉大学	1	6
実習合計		11名	35回

平成 29 年度事業報告	杉並区立重症心身障害児 通所施設わかば	課長： 望月 太敦
--------------	------------------------	-----------

部門職員数（平成 30 年 3 月 31 日 現在）

課長 1 名 (兼務)	主任 0 名	副主任 1 名	常勤 3 名	非常勤 11 名	合計 16 名
----------------	--------	---------	--------	----------	---------

## 1. 平成 29 年度「事業計画」の達成状況

### 1. 関係機関との連携を密にし、一人ひとりのこどものニーズに沿った療育を行う

一人ひとりのこどもの主治医と連携をとり、医療的ケアが必要であれば主治医の指示の下に看護師が実施し、また、理学療法や言語聴覚療法についても指示を受け個別リハビリテーションを実施した。医療的ケアが必要な単独通園児が 1 日 7 名通園することもあり、安全に受け入れを行うため 2 名につき 1 名の看護師が配置できるように調整をしたことで安心して療育を行う体制をつくることができた。また、就学児を対象とした個別送迎の必要性についても事業所内で調整し、就学直前の 3 月に自宅からわかばまで一人で通園する経験ができるように実施した。協力医療機関とのスムーズな連携に取り組み、東京衛生病院の嘱託医による月 1 回の訪問や通園児全員を対象とした内科健診を年 2 回実施することができた。

関係機関との連携構築に向けては、杉並区内の児童発達支援事業所の連絡会や杉並区内の看護師連絡会に担当者が参加した。医療的ケアが必要な単独通園児が増えてきたことから医療職の連携が重要である。看護師連絡会の参加により医療職同士の横のつながりをつくることができ、個別のケースで判断に迷う時など、必要な場合に相談できる関係性が構築できた。また、東京都社会福祉協議会の障害児福祉部会の他区の事業所へ施設見学を実施することができた。

補装具作製の装具診について、担当の理学療法士が個別に訪問し相談や助言を行い、個別のニーズに対応した。就学に向けては、特別支援学校のコーディネーターや教育委員会と連携を取り、対象児に必要な就学支援を実施した。また、保護者同士の交流の機会として保護者会を 3 回開催した。保護者から卒園後もつながりができる集まりを作っていきたいという話を受けて、事業所休業日にわかばを開放して集まる機会がもてるように調整した。

### 2. 重症心身障害児を対象とした児童発達支援事業所に求められる人材育成を行う

スタッフ共通のチェックシートを活用し、各自がわかばでの役割や自分の目標としていることを意識して一年を確認することを実施した。時間調整が課題となり定期的な面接を実施することはできなかったが、職員間のコミュニケーションを大切に、日々の療育後の振り返りや行事準備等、多職種協働で実施した。療育の中での役割も職種に限らずこどもの担当をもつことや療育に必要な物品の準備、行事の企画や行事の担当を行うことで職種の理解が深まっている。今年度は、摂食指導を行うにあたり、摂食指導医による事業所内での研修会を開催した。また、区内の障害者施設の交換研修に参加し、他の事業所の理解を深めるだけでなく、職種間の交流に取り組むことができた。

事故防止や感染症防止に向けては、ヒヤリハット報告に至る前の気づきは毎日の療育後に行われる振り返りにて共有した。感染症等の対策として、手洗い等の標準予防策だけでなく日々の療育後の清掃を重点的にを行い、感染症発症は無く、一年を過ごすことができた。

### 3. 地域とのつながりを通して地域福祉の充実に取り組む

今年度も地域に開かれた行事として、7 月にわかば祭り（夏祭り）、12 月に餅つき大会を開催した。わかば祭り、餅つき大会は、共に同敷地内にある保育室や幼稚園の協力もあり多数の園児と保護者が来場された。行事の中では、障害を持つ子も持たない子も一緒に遊ぶことができる機会を設けることで、わかばのこども達にとって同年代のこども達との交流の機会となった。

今年度は就学児も多い事から車椅子相談会を開催した。車椅子相談会では就学に際して必要となる車椅子製作に向けて支給申請の事務や車椅子デモ機の試乗ができるよう福祉事務所と車椅子業者と連携して実施し、わかば通園児以外でも杉並区内の児童発達支援事業所を利用している児を対象としたため、地域の保護者に向けた講座となった。また、加入している天沼中学校区地域教育推進協議会の杉並区青少年委員

からの紹介のもと中学生 2 名の職場体験を受け入れた。

関係機関との連携では、杉並区障害サービス事業者の交換研修に参加し、杉並区内の他事業所に勤務する 4 名の研修を受け入れた。非常災害対策として 11 月に若杉小全体の合同防災訓練に参加し、同敷地内の保育室、幼稚園との連携を確認した。

また、平成 30 年度に重症心身障害児を対象とした放課後等デイサービスを開設予定の事業者の見学を受け入れ、わかばを卒園した後の居場所づくりができるように支援した。

## 2. 部門業務資料

### 1. 通園状況 (平成 30 年 3 月末)

○登録児 : 12 名

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
重心児	1 名	0 名	1 名	2 名	1 名	4 名	9 名
重心児以外	0 名	2 名	1 名	0 名	0 名	0 名	3 名

### 2. 月別利用実績

29 年度実績	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
営業日数	20	20	22	20	22	20	
登録児数	13	12	12	13	13	13	
延べ通園児数	92	89	69	78	78	90	
内) 単独通園	46	67	46	55	44	58	
内) 親子通園	46	22	23	23	34	32	
稼働率	46.0%	44.5%	31.4%	39.0%	35.5%	45.0%	

29 年度実績	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
営業日数	21	20	20	19	19	21	244
登録児数	13	13	14	14	12	12	
延べ通園児数	95	75	93	86	90	97	1032
内) 単独通園	57	53	57	54	53	65	655
内) 親子通園	38	22	36	32	37	32	377
稼働率	45.2%	37.5%	46.5%	45.3%	47.4%	46.2%	

### 3. 個別 (延数)

29 年度実績	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
PT	15	15	10	8	13	9	
ST	3	2	1	1	1	2	
個別訪問	0	1	0	1	0	1	
補装具相談	0	1	2	1	4	2	
内科健診	0	7	0	2	1	2	
摂食指導	0	0	0	4	0	2	
心理	0	0	0	0	0	0	

29年度実績	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
PT 延数	18	18	13	13	14	12	158
ST 延数	2	2	1	2	2	2	21
個別訪問	0	1	0	0	0	1	5
補装具相談	4	1	6	1	1	4	27
内科健診	5	3	0	4	0	0	24
摂食指導	0	2	0	3	0	0	11
心理	5	1	2	1	1	0	10

#### 4. 活動・行事・外出等

	内 容
4月	お花見（バス散歩）
5月	こいのぼり遊び、父母の日プレゼント製作、春の親子遠足
6月	大型ジェンガあそび、車いす相談会
7月	七夕、かき氷遊び、夏祭りごっこ、うちわづくり、わかば祭り、保護者会
8月	流しそうめん、水あそび、プールあそび、救急救命講習
9月	バルーンあそび、運動会練習
10月	運動会、ハロウィン、幼稚園コンサート
11月	芋ほり遊び、合同防災訓練
12月	餅つき、キャロリング、お楽しみ発表会、大掃除遊び、保護者会
1月	初詣、お正月遊び、書初め
2月	節分、バレンタイン、雪遊び、オリンピックごっこ
3月	ひな祭り、卒園式、卒園遠足、保護者会

誕生会：4月・7月・8月・9月・11月・12月・1月  
 ※通園児の誕生月に実施

避難訓練：毎月実施

杉並区施設間体験研修受け入れ：9月・10月・11月

#### 5. 第三者評価結果について

（評価機関：特定非営利活動法人 NPO サービス評価機構）

##### 〔全体の講評〕

NO	特に良いと思う点	
1	タイトル	遊びを通して、五感を刺激し、遊びを発展させ、その幅を広げ、発達を支援している
	内容	活動前に楽器ごとの絵カードを見せながら、どんな楽器があるかを説明し、キーボード、ツリーチャイム、ハンドベル、トライアングル、ミニシンバルなどの楽器遊びを行っている。また、本物の「竹」を使い、竹に触れ、音を出したり、足で振動を感じたり、棒でたたいて音を聴くなどして楽しんでいる。小麦粉遊びでは、小麦粉を見る、粉に足を入れる、ぬるま湯で粘るなど、段階を踏みながらその子自身が気に入る感触を見つけて遊びの幅を広げている。遊びの活動を軸に、五感を刺激し、遊びを発展させて広げ、発達を支援している。

2	タイトル	戸外活動にも積極的に取り組んでおり、自然物への興味や関心を引き出したり、他園の児童や大人との交流も楽しんでいる
	内容	天候の良い日は散歩や近くの公園に積極的に出かけている。「春を探す」をテーマに散歩に出かけ、所々に咲いている桜の花を立ち止まって見ている。行きと帰りで道を変え、咲いている花や違う景色を楽しみ、自然物への関心や興味を育てている。秋は、鮮やかな紅葉を見、どんぐりや松ぼっくり、紅葉を拾い、季節の移ろいを感じている。道行く人と自然な挨拶を交わしたり、公園では他園の知り合いの職員から声をかけられ、他園の園児と2人で遊具と一緒に乗るなど、他園児との交流も楽しんでいる。
3	タイトル	もぐタイムやゆるりん体操を考案し、利用児の機能維持・向上を促している
	内容	言語聴覚士の指導による口腔機能を高める口腔ケアを実践している。毎日昼食前に「もぐタイム」をとり、口の内と外からつまみ、マッサージを行う事で、口腔機能発達のみでなく、発語や表情の促進・変化をも視野に入れている。口が開き大きな口での笑顔が見られるようになったなどの成功事例がある。今年度は摂食指導医の来所による指導や助言を受け、その模様を写真や映像にとり、職員と共有している。また、毎日のゆるりん体操も、楽しみながら心身機能や感覚機能の発達を促進する機会となっている。
NO	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	給食の提供や園庭遊びなど、療育環境のさらなる充実を期待したい
	内容	廃校となった校舎の一部を整備して使っているが、訪問調査時、園庭を使用できない状況であった。そのため、夏季は、施設内で簡易プールを使って遊んでいる。また、昼食は、保護者がつくったお弁当を持参している。利用者調査では、給食の要望や滑り台・プールなどの設備面での要望が寄せられていた。夏場では衛生上の配慮から、また、多様な食形態を体験するという点で、給食の実施が待たれている。給食や園庭遊びの充実などを期待したい。
2	タイトル	非常勤職員が多いため、情報共有のさらなる工夫とその徹底が望まれる
	内容	利用児は日々何らかのリスクを持ちながらも、緩やかに日々発達している。また、保護者も様々な出来事に遭遇したり、悩みや願いを持っている。多職種での関わりがある当施設では、それだけ情報量も多く、そのため職員が情報収集することに多大な労力が求められる。特に出勤回数の少ない非常勤職員らは、業務に入る前に職種にまたがる情報を得るために、数日間に及び記録を読み解かねばならない。多職種で利用者の発達全体を捉えるためにも、情報共有のさらなる工夫とその徹底が望まれる。
3	タイトル	職員の能力開発とモチベーションの向上を目指し、目標管理制度のさらなる有効活用が望まれる
	内容	自己目標設定シートを用いた目標設定と振り返りを通じて、一人ひとりが課題に前向きに取り組む組織風土の醸成を図っている。一方で、目標管理制度と評価が連動していないこともあり、職員へのフィードバックが十分にされていない状況である。法人では障害児者支援の拡充を計画しており、障害者ケアの高いスキルを持つ職員育成が急務となっている。ついては、職員の能力開発とモチベーションの向上を目指し、目標管理制度のさらなる有効活用が望まれる。

## 東京事業所 職員研修参加状況 (外部研修)

No.	研修名	主催者	研修日(期間)	所属部門	研修参加者	
1	多摩小平地区給食研究会 平成28年度第7回運営会議	多摩小平地区給食研究会	平成29年4月17日	1日間	栄養課	矢口春江
2	拘縮予防改善を実現するポジショニング&ケア	日総研	平成29年5月18日	1日間	看護課	田上泰嗣
3	多摩小平地区給食研究会 平成29年度 総会	多摩小平地区給食研究会	平成29年5月24日	1日間	栄養課	矢口春江
4	多摩小平保健所平成29年度栄養管理講習会	多摩小平保健所	平成29年5月24日	1日間	栄養課	矢口春江
5	平成29年度第1回東京都介護予防推進会議	東京都福祉保健局 高齢者対策部	平成29年5月10日	1日間	中部地域包括 支援センター	小森夫佐江
6	多摩小平地区給食研究会 平成29年度第1回運営会議	多摩小平地区給食研究会	平成29年6月13日	1日間	栄養課	矢口春江
7	平成29年度中規模研修「終末期ケアについて ～利用者の意思決支援と地域ケア～」	東京都介護支援専門員研修 協議会	平成29年7月23日	1日間	居宅介護支援課	宮下留美
8	生活支援コーディネーター養成研修	東京都福祉保健財団 人材養成部	平成29年7月19日 ～ 平成29年7月20日	2日間	中部地域包括 支援センター	榊ふみ
9	東京都地域包括支援センター職員研修 (初任者研修)	東京都福祉保健財団 人材養成部	平成29年6月26日 ～ 平成29年6月27日	2日間	中部地域包括 支援センター	榊ふみ
10	福祉職員職務改装別研修 初任者研修	社会福祉法人 東京都社会 福祉協議会	平成29年8月1日 ～ 平成29年8月2日	2日間	生活介護課	小林祥子
11	多摩小平地区給食研究会 平成29年度第2回運営会議	多摩小平地区給食研究会	平成29年7月21日	1日間	栄養課	矢口春江
12	第1回 脳の健康教室交流会	東京都福祉保健局 高齢者対策部	平成29年6月27日	1日間	中部地域包括 支援センター	小森夫佐江
13	3回連続講座認知症ケアマスター (①認知症 ケア困難事例への対応、②高齢者急変時の対 応、③認知症ケア上級コース)	日総研	平成29年9月9日 ～ 平成29年11月11日	3日間	看護課	武田忠雄
14	社会福祉法人・施設会計基礎実務研修会	東京都社会福祉協議会	平成29年9月6日 ～ 平成29年9月7日	2日間	管理課	松田光一
15	多摩小平保健所平成29年度栄養管理講習会 第6回	多摩小平保健所	平成29年8月1日	1日間	栄養課	矢口春江
16	高齢者福祉施設における”トラブル対応” について学ぶ研修会	東京都高齢者福祉施設協議 会 看護職員研修委員会 職員研修委員会	平成29年8月7日	1日間	看護課	武田忠雄
17	第二回「介護予防による地域づくり推進員連 絡」	東京都介護予防推進支援セ ンター	平成29年8月1日	1日間	中部地域包括 支援センター	榊ふみ
18	東京都介護支援専門員更新研修88時間 (実務経験者)	東京都福祉保健財団	平成29年9月28日 ～ 平成30年2月19日	16日間	GH白山	五味容子
19	東京都介護支援専門員更新研修	東京都福祉保健財団	平成29年5月10日 ～ 平成29年6月25日	6日間	在宅福祉課	片寄純子
20	多摩小平地区給食研究会 平成29年度第3回運営会議	多摩小平地区給食研究会	平成29年8月25日	1日間	栄養課	矢口春江
21	平成29年度東京都高齢者権利擁護推進事業 「介護サービス事業者高齢者権利擁護研 修(居宅系)・第1回」	公益財団法人 東京都福祉 保健財団	平成29年8月16日	1日間	居宅介護支援課	宮下留美
22	経理・業務・帳票のペーパーレス化セミナー	スーパーストリーム株式会 社	平成29年9月14日	1日間	管理課	松田光一
23	第1回東京都キャラバン・メイト養成研修	東京都全国キャラバン・メ イト連絡協議会	平成29年9月6日	1日間	中部地域包括 支援センター	榊ふみ
24	認知症介護実践者研修 認知症対応型サービス事業管理者研修	東京都福祉保健局	平成29年7月6日 ～ 平成29年8月29日	9日間	GH白山	石本さやか
25	防火・防災管理新規講習	東京消防庁	平成29年9月19日 ～ 平成29年9月20日	2日間	GH白山	石本さやか
26	社会福祉法人・施設会計基礎実務研修会	社会福祉法人東京都社会福 祉協議会	平成29年9月14日 ～ 平成29年9月15日	2日間	管理課	千先稜
27	介護予防活動よろず情報交換会	東京都福祉保健局	平成29年9月27日	1日間	中部地域包括 支援センター	榊ふみ
28	平成29年度 介護予防・日常生活支援総合事 業従事者向け介護予防研修 総論	東京都健康長寿医療セン ター	平成29年9月5日	1日間	中部地域包括 支援センター	榊ふみ 小森夫佐江
29	平成29年度東京都介護支援専門員研究協議会 研究協議会大規模研修 第2回「ケアマ ネージャーに必要な相談援助面接力」	東京都介護支援専門員研修 協議会	平成29年10月29日	1日間	居宅介護支援課	宮下留美
30	平成29年度第2回東京都介護予防推進会議	東京都福祉保健局	平成29年8月9日	1日間	中部地域包括 支援センター	小森夫佐江
31	平成29年度認知症初期集中支援チーム員研修	東京都福祉保健局	平成29年9月23日 ～ 平成29年9月24日	2日間	中部地域包括 支援センター	小森夫佐江
32	平成29年度 第1回東京都児童発達管理責任 者研修	東京都	平成29年11月1日 ～ 平成30年11月30日	3日間	杉並重心わかば	北村千穂
33	小児を対象とした普通救命講習会	公益社団法人東京防災救急 協会 すぎなみ重症児おや この会みかんぐみ	平成29年8月27日	1日間	杉並重心わかば	北村千穂 川村敦奈 山本順子 森はるか
34	第1回ケアマネージャーに必要なアセスメン トの視点 第2回ケアマネージャーに必要な面接技術	東京都介護支援専門員協議 会	平成29年9月18日 ～ 平成29年10月29日	2日間	中部地域包括 支援センター	鎌谷博子

No.	研修名	主催者	研修日（期間）	所属部門	研修参加者	
35	H29年度区市町村職員等高齢者権利擁護研修「擁護者による高齢者迎撃対応研修（基礎研修・第2回）」	東京都福祉保健局高齢社会対策部 東京都福祉保健財団	平成29年9月14日 ～ 平成29年9月21日	3日間	中部地域包括支援センター	鎌谷博子
36	地域包括・在宅介護支援センターが行う居場所づくりとその支援とは	東京都社会福祉協議会 福祉部	平成29年6月28日	1日間	中部地域包括支援センター	榑ふみ
37	介護予防・日常生活支援総合事業従事者向け介護予防研修ワークショップBグループ	東京都健康長寿医療センター研修所	平成29年10月4日 ～ 平成30年2月6日	4日間	中部地域包括支援センター	榑ふみ
38	看護師に求められるスキンの基本と実践	メディカルセミナーズ事務局	平成29年12月3日	1日間	看護課	丸山直美
39	看護師のための褥瘡ケアセミナー	メディカルセミナーズ事務局	平成29年12月9日	1日間	看護課	小堀恭子
40	サービス提供責任者初任者研修	一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会	平成30年1月17日	1日間	訪問介護課	平尾明美
41	第31回ニッセイ財団シンポジウム「高齢社会を共に生きる」新たな地域包括ケアの構築	公益財団法人 日本生命財団	平成29年12月2日	1日間	中部地域包括支援センター	秦麻由美
42	ユマニチュード入門コース	株式会社エクサウィザーズ	平成29年12月2日 ～ 平成29年12月3日	2日間	生活介護課	宮下賢二 茂野和恵 森有里
43	多摩小平地区給食研究会 平成29年度第4回運営会議	多摩小平地区給食研究会	201711/30	1日間	栄養課	矢口春江
44	平成29年度東京都介護支援専門員研究協議会研究協議会 第3回大規模研修「相談援助職の記録の書き方」	東京都介護支援専門員研修協議会	平成29年11月29日	1日間	居宅介護支援課	宮下留美
45	看取りケア研修実践編 看取りケアの体制整備と利用者の安らかな旅立ちにむけて	お茶の水ケアサービス学院	平成29年11月15日	1日間	G H 本天沼	安藤聖哉
46	「働き方改革」研修会	者かい福祉法人 東京都社会福祉協議会 福祉人材センター研修室	平成29年11月17日	1日間	管理課	清水浩二
47	介護予防でつながる！ひろがる！大交流会	東京都	平成29年11月24日	1日間	中部地域包括支援センター	秦麻由美
48	29年度栄養管理講習会 第10回12月4日 冬の食中毒と食品衛生の最新情報 他	多摩小平保健所	平成29年12月4日	1日間	栄養課	矢口春江
49	東日本教区牧師インターン・牧師補研修会	SDA教団東日本教区/グローバル・リーダーシップ サミットインジャパン実行委員会	平成29年11月23日	1日間	管理課	村上亮
50	インターン・牧師補研修会	SDA教団東日本教区	平成29年12月13日 ～ 平成29年12月14日	2日間	管理課	村上亮
51	我がまち再発見！地域診断について、お困りではないですか	東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当	平成29年12月11日	1日間	中部地域包括支援センター	榑ふみ
52	「平成30年度 法改正直前セミナー」	社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 福祉人材センター研修室	平成29年12月12日	1日間	管理課	清水浩二
53	第20回第1期東京都介護支援専門員実務研修	公益社団法人 東京都福祉保健財団	平成30年1月9日 ～ 平成30年3月22日	19日間	G H 本天沼	安藤聖哉
54	①幼稚園教育要領の改訂講習会 ②保育所保育指針の改定講習会	(株)学研教育みらい幼児教育事業部	平成29年1月20日 ～ 平成30年3月2日	2日間	杉並重心わかば	望月太敦 北村千穂
55	平成29年度区市町村高齢者等見守り担当者連絡会	東京都福祉保健局 高齢社会対策部 在宅支援課 在宅支援担当	平成29年12月15日	1日間	中部地域包括支援センター	榑ふみ
56	法改正・報酬改定の動向から見えてくるケアマネージャーの役割	一般社団法人 東京ケアマネージャー実践塾	平成29年12月16日	1日間	居宅介護支援課	楠美綾子
57	全国牧師会	牧師会	平成30年1月14日 ～ 平成30年1月18日	5日間	管理課	村上亮
58	第9回全国施設管理者等研修会「重い障害のある子ども達への支援」	一般社団法人 全国児童発達支援協議会	平成30年2月16日 ～ 平成30年2月17日	2日間	杉並重心わかば	望月太敦
59	第2回成育・心身障害児総合センター合同講習会 障害児・医療的ケア児における呼吸障害とその対応	日総研出版	平成30年1月6日	1日間	杉並重心わかば	山本順子
60	介護現場で行うケアとリハビリテーションの理念に基づく機能訓練の考え方と実践	東京都社会福祉協議会	平成29年11月17日	1日間	看護課	鈴木真弓
61	平成29年 介護職員スキルアップ研修・医療ニーズを見逃さないケアを学ぶ	東京都社会福祉協議会 東京都福祉人材センター研修室	平成29年10月19日 ～ 平成29年11月14日	3日間	幸町 ダイサービス	栗林香苗
62	平成29年度第3回若年性認知症相談支援研修	東京都福祉保健局 高齢者対策部	平成30年1月30日	1日間	中部地域包括支援センター	小森夫佐江
63	小規模社会福祉施設防火実務講習・普通救命講習会	公益社団法人日本認知症グループホーム協会	平成30年2月8日	1日間	G H 本天沼	遠藤誠 若宮和子
64	多摩小平保険所 平成29年度 栄養管理講習会 第11回	多摩小平保健所	平成30年2月19日	1日間	栄養課	矢口春江
65	サービス提供責任者初任者研修	一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会	平成30年1月17日	1日間	訪問介護課	目次純子
66	東京都認知症支援コーディネーター等研修	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター	平成30年1月19日	1日間	中部地域包括支援センター	秦麻由美
67	ナースが知っておくべき法的知識を日々の看護ケアに生かす	日総研出版	平成30年2月24日	1日間	看護課	武田忠雄
68	よくわかるレビー小体型認知症	北多摩北部保健医療圏 薫風会山田病院 認知症疾患医療センター	平成30年2月8日	1日間	看護課	武田忠雄
69	多摩小平地区給食研究会 平成29年度 研修会	多摩小平地区給食研究会	平成30年3月12日	1日間	栄養課	矢口春江

No.	研修名	主催者	研修日（期間）	所属部門	研修参加者
70	平成29年度東京都介護支援専門員研究協議会 第4回大規模研修「2018年診療報酬・介護報酬 ダブル改定でいったい何がかわるのか？」 「ケアプラン策定における人口知能（AI） 導入の行方」	東京都介護支援専門員研究 協議会	平成30年3月24日 1日間	居宅介護支援課	宮下留美
71	2018年医療報酬・介護報酬・ダブル改正で いったい何がかわるのか？ ケアプラン策定 における人口知能導入のゆくえ	東京都介護支援専門員研究 協議会	平成30年3月24日 1日間	中部地域包括 支援センター	鎌谷博子
72	介護報酬改定と通所介護の今後を考える	東京都社会福祉協議会 東京 都高齢者福祉施設協議会 センター部会 デイサービ	平成30年3月13日 1日間	在宅福祉課	長田宏明
73	認知症介護基礎研修	東京都	平成30年2月22日 1日間	生活介護課	屋代圭介
74	平成29年度生活相談員研修委員会 全大会	東京都社会福祉協議会	平成30年3月16日 1日間	在宅福祉課	長田宏明

## 平成29年度 施設内研修会 （職員会／内部研修）

No.	研修名	講師 / 担当者	日付	出席者
1	「平成29年度事業計画について」 「新入職員・新任役職者などの紹介」	担当： 施設長・課長会	4月20日	60
2	「食中毒と感染症予防について」	講師： 栄養課長 矢口 春江	5月18日	54
3	「平成28年度 事業報告・決算報告」 「隣人愛に生きる」	担当： 施設長・各課長 講師： 理事長 東海林 正樹	6月15日	55
4	特別公開職員会 「認知症の人への虐待と不適切なケアを考える」	講師： 東京都グループホーム協議会 代表 林田 俊弘 氏	7月20日	53
5	「EPAを受け入れるにあたって」	講師： 特養ホーム シャローム 安河内 アキラ 施設長	9月21日	52
6	「施設内研究発表会」	講評： 日本社会事業大学福祉学部 富永 謙太郎 氏	10月19日	55
7	「感染症について」	担当： 感染症対策委員会	11月16日	52
8	「次年度 介護保険改定に向けて」 「EPA歓迎会」	担当： 施設長・副施設長	12月21日	50
9	「法令順守・職業倫理」	講師： ケアサービスひかり 吾妻 正徳 氏	2月15日	43
10	「接遇研修会」 コミュニケーション能力の向上	講師： 日本接遇教育協会講師 中原 久子 氏	3月15日	53
合 計				527